



## 平成30年 7月17日(火) 晴れ

三連休はいかがでしたか？

各部活動では、大会やらコンクールやら、練習やらと忙しくて3日間活動をしていたというところがほとんどではありませんか？

14日には東大、京大のための勉強会が各務原でありました。本校の生徒も8名ばかり参加していました。

相変わらず、朝から暑いです。すぐにエアコンをつけました。

今週は、明日から保護者懇談会。午後からですがよろしくお願いします。

応援練習やら、学校祭の準備やら、皆忙しく活動しています。

## 平成30年 7月13日(金) 晴れ

朝から暑いです。雷が来そうな雲行きです。今日も猛暑日かな？

今日で夏休み前の一日フル授業は終わりです。

来週は海の日をはさみ、18日(水)から24日(火)まで、保護者懇談会があります。

3年生諸君。夏休みを制するものは受験を制するですよ。

### <教え子から学ぶ>⑧

卒業生からこんな相談を受けました。どう思われますか？

二人の学生がいる。二人とも、同じ地域から、同じ大学に行っている。

一人(Aさん)は学校の近くに下宿した。その学校には、多くの実習があり、その実習が大変だということで、実習中は朝早く実習場所に行かなければならなかったり、または、夜遅く帰宅することもあるだろうからと、Aさんの親御さんは、学校の近くに下宿を借りたそうだ。

もう一人(Bさん)は片道2時間かけて公共交通機関で通っているとのこと。

ちなみに、Aさんは私の教え子でよく知っている。おとなしくて慎重派で、言いたいことを我慢する子。それに対して、Bさんは、私は会ったこともないのでわからないが、Aさんによると、社交的であっけらかんとしていて何でも思いつくまましゃべる子だそうで

ある。

実習の日が近づいてきた。

実習に行く場所が遠く、通うのには時間がかかり、1番電車で行っても、ひよっとすると遅刻するかもしれない。

そこで、Bさんは、「実習中の1ヶ月ばかり、泊めてもらえないか。」とAさんをお願いをしたそうだ。特に、BさんはAさんと親しいわけでもなく、また、一度もAさんの下宿には来たこともない子だということだ。

この場合、あなたは、Bさんが困っているからと言って、実習中の1ヶ月、泊めてあげることはできるでしょうか？

Aさんの立場でかんがえると、実習という、特に大事で、神経を遣う期間なので泊めたくはないと思うのではないだろうか。ましてや、実習中、今までまったく一緒に住んだこともない子と1ヶ月一緒にいて、レポートや予習をしたり、それから生活習慣も違うから、たぶん息が詰まって、苦痛以外の何ものでもない日常がおきくと思う。だから、なおさら泊めたくないと思うに違いない。でも、性格上、Aさんは、自分自身は苦しむかもしれないが、困っている子を見過ごすわけに行かないとも思うのではないだろうか。

Aさんの頭の中を、天使と悪魔がうごめき、悩むだろうなと私は思う。

Bさんの性格では、単純に頼んだだけかもしれないが、そのくらいAさんを苦しめているということは、きっと思っていないだろう。

その学校では、一般的に公共交通機関を使って遠くから通っている子は、実習中には、近くにビジネスホテルなどを借りて実習に行く子が多いそうだ。マンスリーマンションを1ヶ月借りる子もいると聞いた。

そういう子が多い中、考えた挙句の決断なのかもしれないが、Bさんはそういう手立てを考えないで、安易に、他の子に甘えようとしたのではないかと思う。

結局、Aさんはいろいろ悩んだ末、Bさんに断った。

でも、Aさんは、“Bさんが困っているから頼んできたのに断ってしまった。”という罪悪感を強く持って、悩んでいるとのことだ。

私はその話を聞き、Aさんに、「まず、Bさんが、実習場所が遠くて通うには時間がかかるので、親に、ビジネスホテル等を借りるように話をしたのだろうか？」と聞いたら、「Bさんはそんなことするはずがない。一人で住むのはもったいないし、一人では住みたくないということで、たぶん、親には話してないと思う。」とのことだった。さらに、あえて、「Bさんに、『親に話した?』と聞くのもいやだ。」とも言っていた。

Bさんは、ビジネスホテル等を借りる努力もせずに、安易に、Aさんに頼んで、何とかなると思ったのではないかなと推測される。

さらによく聞いてみると、細かいことだが、1ヶ月の部屋代、光熱費、食費等の話は何も出なかったし、どうも、1ヶ月、ただで泊めてもらおうとしたような雰囲気を感じ取られたとのことだ。

勝手すぎると私は思う。

Bさんの親はそういう事実を知っているのだろうか？

たぶん、Aさんの話では、「親には言っていないと思うから、たぶん親は知らないと思う。」と言っていた。でも、もし、Bさんの親が、そのことを知っているにもかかわらず、「友達

に頼んでみたら、どうなの？」などということを書いていたら、私としては、親の対応は「×」です。

私が親なら、他人に迷惑をかける前に、自分の子どものために何とかしようとするし、なんとかしようと四方八方手を尽くし、何とかするつもりだ。

さすがに、何ともならなかったとしても、自分が1ヶ月、送迎をするぐらいの覚悟を持つつもりです。

親の態度、姿勢、価値観、考え方って、大事だと思う。

育てるということは、いろいろな考え方が、子どもに伝わる、繋がる、繋げるということだと思う。

後日談だが、ずっと以前に、Bさんとのやりとりに、こんなこともあったそうだ。

Bさんに、「講義のノートを貸して。」と言ったら、「あなたは、代わりに何をしてくれるの？」と交換条件を出してきたそうだ。冗談ではなく、本気で。ギブアンドテイクかもしれないが、Bさんにとっては、「される側」と「する側」では、論理が違うのだなと私は感じた。

もし、Bさんが、Aさんの立場で、「実習中の1ヶ月ばかり、泊めてもらえないか。」に対して、どう返答したのだろうか？

私は思う。たぶん、即答で、「NO!」と書いていただろう。

多分、推測するに、Bさんは自己中心的な子ではないかと思う。現実には違うかもしれないが、たとえ、Bさんがそういう子ではなかったとしても、第三者にそう思わせている現実を否めない。

そんな子に悩まされ、罪悪感を感じて、辛い思いをしたAさんがかわいそうだ。

でも、はっきり断ったことで、Aさんは、今後は楽になると思う。そう思いたい。

しかし、多分、何も深く考えていないBさんは、また頼んできそうな気がする。

今後、Aさんが辛い気持ちになるようなことがないように、祈らずにはいられない。

あなたがAさんだったらどうしますか？

## 平成30年 7月12日(木) 曇りときどき雨

朝、少し雨が降りました。蒸し暑くなりそうな予感がします。一日曇りの予報ですが、雷が来そうな雲行きです。今日も猛暑日かな？

昨日、「まるっと!ぎふ」で、関高校SGHの取り組みのひとつの“LGBT”について放送されました。10分程度でしたが、取り上げていただき、感謝です。

### <教え子から学ぶ>⑦

Cさんは、高校に入学し、4月にいきなり数学で躓いたらしく、それをずっと引きずって、1年生の終わりの数学の成績は、5段階で2。5段階の1は、合格点ではないので、2というのは合格ぎりぎりの成績です。

私はCさんの1年生の担任ではなかったが、2年生で担任することになった。

Cさんは、担任が数学担当なので、はじめから斜に構え、睨んでいるようにさえ見え、いつも表情は険しかったことを覚えている。

それでも、折に触れ、声をかけ、数学の教員と言うよりも、一人の担任として、心を解すように努めた。

徐々にCさんも心を開き、わからないところは授業中も聞いてくれるようになった。

とにかく、気長に対応し、どんな初歩的なことと思われることでも、“聞いてくれてありがとう”と言う気持ちで対応していた。

すると、数学の時間だけでなく、放課後や、通学列車の関係で早く登校していたので、朝早くからも聞きに来てくれるようになった。

次第に数学の問題が解けるようになってきたのか、授業中の表情も穏やかで前向きな姿勢になってきた。

よく見ていると、他のわからない生徒に教える姿さえ見られるようになった。

何かができるようになると、続いて何かができる。まさしく正のスパイラルとなる。良循環である。

問題を解くと正解である。楽しくなって、また問題を解く。するとまた正解であるから、解くことが楽しくなる。この繰り返しから、Cさんは、見る見る明るく、いい表情になっていった。

2年生の学年末には数学の成績は、5段階で5。1年生から比べてみるとものすごい成長。保護者の方もびっくりしておられました。

でも、Cさんの将来の職業は保育士志望。だから、3年生は文系を選択し、担任も私ではなくなった。高校生活最後の3年生は、あまり数学には関わらず、卒業していった。

私が担任した、あの2年生の1年間は、Cさんにとってどうであったろうか？

私は担任させてもらって、成長を見させてもらい、とても感動させてもらった。

子どもは、“わかる”とか、“できる”とかを実感すると、眼は輝き、表情は明るくなり、その喜びをともに味わわせてもらえました。

どの子ども、“わかりたい”、“できるようになりたい”という思いは必ずあります。

“達成感”、“充実感”を味わいたいと思うのは当然です。

教師だからこそ、それをともに歩みながら、味わわせてもらえたのだと、Cさんから教えてもらいました。

## 平成30年 7月11日(水) 晴れ

朝から晴れています。

今日は猛暑日(最高気温が35℃以上)になるそうです。

本日、午後6時30分からのNHK岐阜放送局「まるっと!ぎふ」で、関高校SGHの活動において、性的マイノリティのことを表す“LGBT”について学習を深めている生徒たちのことが放映されます。5分?程度と短いらしいのですが、ぜひ見ていただきたいです。どのように編集されているか誰も知らないのでドキドキです。

話は変わりますが、こんな文を読んだので載せます。

昨日、母が亡くなった。

病気ひとつしない元気な母だった。

僕が保育園に入る頃には、もう父はいなかった。

母は早朝4時に起きて俺たち兄妹の弁当を作り、朝から夕方まで弁当屋でパート。帰って来たら晩飯を作ってすぐに出て行き、深夜までパチンコ屋での掃除のバイト。

休日は月に3回あればよい方だったと思う。

そうやって僕と妹は育てられた。

反抗期なんてほぼ無かった。あるはずがない。

あんなに頑張る母親を見て、反抗などできるはずがなかった。

いや…、一度だけあった。

クリスマスの二、三日前に当時流行っていたゲームボーイが欲しいとねだったのだ。

友達がみんなゲームを持っているのに、自分だけ持っていないと虐められるからと。

何故、あんな嘘をついたのだろう…。

母は、

「ごめんね…」

と泣いた。僕も何故か悲しくなって、家族三人でボロボロ泣いた。

その日は三人とも同じ布団で抱き合って寝た。

クリスマスの日の夕食は、おでんとケーキだった。

母親は子どものようにしゃぎ、歌い、最後に

「はい」

とプレゼントを渡してくれた。古いゲームソフトだけを買って来たのだ。

“これだけじゃできないんだよ。”と、言おうとしたけど、嬉しそうな母の顔を見ると言えなかった。

あれから二十年、兄妹揃って、大学まで出してくれた。

「俺も妹ももう就職したし、これからは楽をさせてあげるから仕事辞めなよ」

と言ったのに。働いてなきゃボケるって…そんな年じゃないだろう。

どこか三人で旅行に行こうよと言っていたのに。

妹の結婚式を見るまでは死ねないと言っていたのに。

何で末期癌になるまで働くんだよ…。

何度も病院行こうって言ったじゃないか。

先生も、

「あんなに我慢強い人見たことない。」

と言っていたよ。

看護師さんに

「迷惑掛けてごめんね。」

ばかり言ってたんだってね。

いつも人のことばかり気にして…。

震える手で書いた、枕元の手紙、読んだよ。

『〇〇ちゃんへ

小さい頃はいつもお手伝いありがとう。  
あなたはわがママをひとつも言わないやさしい子でした。  
妹の面倒もたくさん見てくれてありがとう。  
あなたが生まれてきてくれてほんとうにうれしかったよ。  
あなたのお嫁さんを見たかったなあ。』

『△△へ

女の子なのにおしゃれをさせてあげられなくてごめんね。  
いつも帰ったら「ぎゅっとして」と言ってくるあなたに、私は何度救われたかわかりません。

あなたは、あなたを愛する人を見つけなさい。  
そしてその人のために生きなさい。  
死は誰にでも訪れるものです。  
悲しまないで。  
あなたがもし辛いことがあったら、いつでもあなたの枕元に立ちますよ。なんてね。  
あなたたちの母親で良かった。  
また生まれ変わってもあなたたちの母親でありたい。  
それが私の唯一つの願いです。  
体に気をつけて。  
寒いからあたたかかくして。  
それから…、それから…、きりがいいからやめとくね。  
たくさん、たくさん、ありがとう』

お母さん…。手紙は涙で滲んでボロボロだったよ。  
だから、“紙を買って来てくれ”って言ってたんだね。  
お母さん…。ありがとう…。ありがとう…。ありがとう…。

まだ遊んでるよ。プレゼントしてくれたスーパーマリオランド。

## 平成30年 7月10日(火) 晴れ

朝から晴れています。  
今週は暑くなるようです。  
日曜日まで、特別警報が岐阜県に出されました。  
昨日も夕方突如大雨警報が出されました。不安定な天気が続いています。  
また、昨日この地方に梅雨明け宣言が出されました。これから蒸し暑くなります。

### <教え子から学ぶ>⑥

高校に入学の仕立ての頃、Bさんは一日中機嫌が悪かった。どうして機嫌が悪いのかわ

からなかった。でも、顔で判断してはいけないが、明らかに不機嫌そうで声がかけ辛かった記憶がある。

4月の教育相談の時期。Bさんとの懇談。

「申し訳ない。違っていたらごめんね。どうして不機嫌そうにしてるの？笑顔の方がすてきなのに。」と言ったら、実は、“高校に行かないで美容師になるつもりでいたのに、親に説得されて、高校だけは出ておきなさいと言われた。何の目的もないまま、どうせ美容師になるのだから、高校なんて行く必要がないと言う思いでずっといた”とのことだった。

それなら、いっそのこと、“いつも行っている美容室で何日か働かせてもらったらどうか”と提案しました。土曜日か日曜日ならば、学校にも来ない日なので。そして、お金もらわなければアルバイトではないし。

Bさんの話では、実際には3週間。毎土曜日、日曜日に行ったそうです。

行ってみたら、Bさんの肌に合わなかったのか手が荒れて、また、一日立ち仕事で足がパンパンになり、一日いるだけでぐったりとしたそうです。趣味で自分が好きなように人の髪の毛を触って、いじっているのはいいけど、お客さんのいうとおりにするのって大変で、しかもいつもニコニコしていることの大変さや働くって大変だということが身にしみたそうです。お店の人にいろいろ話を聞いているとやはり高校を出ておいたほうがよいとのアドバイスも受けたそうです。

本来なら私たちがすべきところをその方たちにしてもらいました。ありがたいことです。いろいろな方からの話を伺い、自分の将来を見据えるって大切ですな。

今で言うインターンシップ？を終え、Bさんは気持ちが吹っ切れたのか、不機嫌そうでもなく、自然な笑顔で過ごしていました。皆もBさんの笑顔を見ると自然に笑顔になれました。

その後、Bさんは高校を卒業し、短大に行った後、保育士になり、結婚して、今は専業主婦です。自分のかわいい娘の髪を編みこみしたり、三つ編みにしたり、カットしたりしているそうです。

自分の趣味がそのまま仕事になればそれにこしたことはないけれど、どの仕事も大変ですね。自分が思っているだけではなく、踏み出して体験することでまた違った見方ができます。将来の自分のキャリアのためにも、いろいろな体験をしておく必要があると思いました。

## 平成30年 7月 9日(月) 晴れ

朝から晴れています。

今週は暑くなるようです。

昨日まで、特別警報が岐阜県に出されました。

川が氾濫し、床上浸水、床下浸水など、大変な地域もあったようです

被災した生徒がいないか、学校としても何か協力できることはないかと考え、とりあえず、生徒からの情報収集をすることにしました。

今は何事もなかったかのように静かに時は流れています。でも、昨日までの大変な状況下の中、まだ、片付けに追われておられる方もいるかと思えます。

暑くなっています。熱中症に気をつけましょう。  
もうすぐ梅雨明けか？雷がごろごろと鳴っています。

## 平成30年 7月 6日(金) 雨

昨日から継続して、大雨警報が出ています。規定により自宅待機。  
11時に買っても解除にならず、結局、土日を含めて5連休になってしまった。  
補充授業日を設定しなければならないかな？  
各地で記録的な雨。岐阜県も大変なことになっている。

昨日の課題の連絡で、課題やってますか？  
まだ、明日も続くようです。  
大丈夫かな？  
台風8号も発生し、来週もまた心配。

## 平成30年 7月 5日(木) 雨

朝から大雨警報が出ていました。規定により自宅待機。  
昨日の夕方警報が出ていたところも、未明に一時、注意報に変わっていたところがあり、  
関市もそうでした。5日は学校再開かと思いきや3時50分頃、警報に切り替わりました。  
このまま自宅待機になるかなと……。  
ところで、自宅にいる生徒諸君は、各自、このときとばかりに、きっと、自分の思い通  
りの学習をしているという生徒もいると小耳に挟みました。すごいですね。無理せず、焦  
らず、頑張り過ぎないようにね。  
でも、もっとやって欲しいから、申し訳ないけど、“すぐメール”で月曜日までの課題を  
出しました。明日、警報解除で登校することがあっても課題の量は減らないので、早めに  
やっておくほうが無難かな？ まだまだ雨が続いています。土に含むことができるキャパ  
を超えたら大きな災害になります。大きな災害にならなければいいと願っています。

### <教え子から学ぶ>⑤

言葉は魔物である。

生徒を指導しているとき、生徒のことを思って、熱く語っていた。今思えば自分の言葉  
に酔っていたのかもしれない。自己満足だったのではないだろうか？

その“説教”が終わった途端、彼は、「おまえが、“生きる価値ない”と言ったから、お  
前の思っているとおりに辞めりゃいいんやろ？辞めたるわ。」と言った。(5月18日に書  
いた生徒とは別の生徒です)

そんなつもりなど毛頭なかった。

本人には理解できない言葉や、くどいことを言っていたのかもしれない。“生きている価  
値がない”と言うところだけが、彼の頭の中に残ったのだろう。

もう一度、丁寧に言葉を選んで、ゆっくり、やわらかく話した。



「私の本当の気持ちをわかってくれるかな？」って、あらためて聞いたら、彼は、「ええよ。」と即答した。“えっ？そんなに軽いの？”と思ったけれど、まずはホッとしました。

何とか、事無きを得たのですが、彼の理解の範疇を超える言葉のオンパレード（大して難しい言葉は使わなかったのだが、彼にとっては、日本語ではないとのことだった）だったのである。だから、彼はどうしていいのかわからず、理解できるところだけ、言葉を切り取って、めんどくさいから、「やめりゃいいんだろ」と言う短絡的な回答になったのだろうと推測できる。

私はそれ以来、言葉は難しく話して権威付けることよりも、相手にこちらの本意がきちんと伝わっているのかどうかを気にするようになりました。

都合のいい部分だけ切り取られるのも悔しいから、無駄に長く、余分に、くどくどとしやべらないようにもしている。

相手に自分の本意が思い通りに伝わるならばそれでよい。

簡単な言葉で、誰にでもわかるようにするのが相手とコミュニケーションをとるために本当に大事だと私なりに気付かせてもらった。そうすれば、短くても的確に伝わるし、話も短くてすむから一石二鳥です。

言葉は言霊です。発せられた言葉は魂を持って相手に届くのですね。一言一言を大事にしたいものです。

教え子に大切なことを教えてもらいました。

## 平成30年 7月 4日(水) 雨

台風7号が日本海を北上し、暴風圏は無くなったが、暖かい空気が太平洋上から供給されて、雨が降っています。

午前中にも大雨警報が発令される予測なので、早朝に休校と、“すぐメール”を出しました。災害が起こらないことを祈ります。

### <現状維持は後退である>

最近の子どもたちは元気がないように見えます。

若者らしく、いろいろなことにチャレンジしてほしいと願っています。

しかし、多くの若者は失敗を恐れ、敢えてチャレンジをしていないのではないのでしょうか。

現状のままでは後退と同じです。（5月10日にも書いてあります）

失敗するという事は、何か行動をしたという証です。

失敗したっていいじゃないですか。

失敗した後、どのようにすればよかったのか、また、今後どのようにすればよいのかを考えることの方がとても大切だと思います。

失敗したことが節となり、その節がいっぱいある竹こそが、どんな困難にも打ち克つことができる、しなやかで丈夫な竹になるのです。

節のない竹は、見た目はきれいかもしれませんが、重い雪などが乗るとその重さに耐えかねて、折れてしまいます。

子どもたちには、失敗を怖れず、常に前向きで、チャレンジして欲しいと願っています。

＜人間万事塞翁が馬＞

ところで、失敗とか成功とか言うておりますが、何を持って失敗とするのか、または成功とするのかの基準は人それぞれであって、定かではありません。

成功だと思っていたものは、実は失敗の前触れであったり、失敗だと思っていたものは、実は成功への足掛かりになっているのかも知れません。

それはまさしく「人生万事塞翁が馬」。

いずれにせよ、若者の特権は、失敗を怖れず、常に何かにチャレンジができるということだと思えます。

## 平成30年 7月 3日(火) 晴れときどき曇り

朝から蒸し暑い。

台風7号が九州に接近しています。梅雨前線が刺激されて大雨に警戒しなければいけないか？4日(水)から週末にかけて、天気を気にしながらの毎日になると思えます。

＜教え子から学ぶ＞④

4月からも担任を持つことになり、いろいろな思いを胸にクラスの準備をしていた時のこと。

あるところから電話があった。

「今度お宅の学校に入学する生徒Aさんを連れて帰って欲しい。」とのことだった。

まだ、入学もしていない4月はじめ。かといって、4月からの新入生は中学校を卒業して高校に合格し入学予定なので、在籍は高校になる。

その生徒の親は不在で連絡が付かないとのこと。

まだ、皆に公表されていないけど、その生徒の担任になるであろう私が行くことになった。

その後、いろいろあって、Aさんは学校を去った。

Aさんのことは気にはなっていたものの、転居したらしく、その後の消息はわからなかった。

ところがそれから20年後、偶然、その当時とは別の、私の勤め先で出会った。

Aさんに向かって、私が、「Aさんやない？」と言うと、Aさんは、びっくりした顔で、でも、はにかんで、「〇〇高校の時にお世話になった先生？」と、あのときのとげとげしい印象はまったくなく、丁寧に返してくれた。

その日の仕事の終わりに、時間を忘れて、Aさんといろいろ話した。

“退学した後は、最終学歴は中卒なので、資格を取るのに大変苦労したこと”、そして、“大変だったがゆえに、私がとにかく「やめないで続けるように」と言ったことが、いつも脳裏をよぎっていたこと”などを話してくれました。

また、“あの時は、勢いでやってしまったけど、その後にこんなに大変苦労するとは思わなかった。今思えば、先生の言うことを聞いておけばよかった”とも言ってくれました。

しばらく話していましたが、その当時のあどけない15歳のAさんが蘇り、懐かしさで

いっぱいでした。

人は苦勞して失敗して成長していくものなんですね。

Aさんと再会し、時が人を大人にしてくれたんだと実感しました。そして、あらためて、何年かして大人になった生徒たちと思い出が語れるのも、教師冥利に尽きるものだとも感じました。

でも、今思うと、当時、まだ駆け出しの教員で、偉そうに生徒たちに語っていた自分が恥ずかしいです。生徒にとって満足のいく、納得の行く指導ができたとはおおよそ言いたいかもしれませんが、それを許してくれていた、いや許さざるを得なかった、当時の生徒たちに申し訳なさでいっぱいです。

## 平成30年 7月 2日(月) 晴れ

晴れていますが、台風7号の影響で、少し蒸し暑いです。

今週の水曜日4日の朝、大雨にならないといいですが。

今週は、3週間の教育実習を終える卒業生の研究授業があります。

頑張ってください。

今朝、岐阜新聞に教員が足りないと言うニュースが出ていました。人づくり、子どもとの触れ合い、そして、教育に携わっているという責任感と充実感。いつまでも若い生徒たちと関わっていることで若さが保たれています。

毎回言いますが、ぜひ本県の教員になりたいという志望が強くなってくれることを期待しています。

関市は「LGBTフレンドリー宣言」をして約2年になります。

高齢者、障がい者、若者、性別などいろいろなことにとらわれることなく、多様な市民がお互いを尊重し合い、みんなが暮らしやすく、認め合い活躍することができるようにと、「ダイバーシティ(多様性)」について考える会が、昨日、7月1日(曜日)13時から16時、関市わかくさ・プラザ「総合福祉会館」3階の会議室で行われました。

この会は、関高校と関市市民協働課と中部学院大学が協働開催です。

関高校の担当は、SGHの研究の一環として、LGBTの研究を進めているグループが事例発表、イベントの運営、ワークショップの進行でした。

関高生の発表の後、中部学院大学の竹之下祐二教授から「霊長類の性」について、同大学の水野友有准教授から「障がい者の性」についての講演が行われました。

この後、ワークショップでは、団体メンバーや当事者、高校生、一般参加者の方々が、多様な個性を認め合えるまちづくりの必要性などについて意見交換をしました。特に、時間のない中でテーマを絞り、「制服」や「トイレ」について、6つのグループに分かれ、討議がなされました。

その司会進行も関高生。

生徒諸君の発表から、段取り、進行が素晴らしく、大人顔負けだったと思います。

いろいろな生き方が認められ、そして、自分の居場所があれば安心できますね。誰もが安心して、ありのままの自分でいられると、生きやすいですね。

ありのままの自分と言えば、こんな生徒がいました。

### <教え子から学ぶ>③

A子さんは、何度も確認したり、いつもおどおどしている態度の生徒でした。

生い立ちを聞くと、小さい頃から「いい子」として頑張ってきたようです。A子さんのお母さんは、お姑さんに気を遣い、また、弟たちのことでお姑さんによく叱られていました。それを間近で見ているA子さんは、自分がいい成績を取ることで、また、優等生として努力し続けることで、お姑さんから、お母さんを守ろうとしていました。

でも、やがて、A子さんは、お姑さんやお母さんの期待に応えられず、『自分はいない方がましだ。』と思うようになりました。

本来、A子さんは音楽が好きで、勉強よりも、音楽を聴いて過ごしていたかったのです。しかし、周りの評価が気になり、いい子にしているのが、本当は窮屈でたまらなかったのです。

本人は苦しくなりました。

どうしてよいかわからなくなり、担任である私に相談に来ました。

私は、A子さんの話を聴くだけでしたが、彼女が自分で話していく中で、少しずつ本当の自分の気持ちに気づきはじめました。

“自分自身の姿をあるがままに受け入れ、優等生じゃなくてもいいんだ”と思えるようになったら、気分が晴れたようでした。

それから、A子さんはありのままの自分を受け入れることが出来るようになり、表情も生き生きと輝き、笑顔も出るようになりました。

「ありのままの自分」を受け入れるということは、背伸びせず、身の丈に合った生き方をすればよいということ。いい子でなくとも、完璧でなくとも、存在しているだけでいいのだということ。

大人から、『どんなあなたでも、あなたのことが大好きだよ。』と、存在価値を認めてもらいながら育つことによって、それは可能になっていくものだと、私は思います。

『どんなことがあっても、時には、親に反抗しても、我が子は我が子。あなたは自分たちにとって、かけがえのない存在なんだよ。』という親の、無言のメッセージが、「どのような自分であっても、生きていていいのだ。」という安心感を育てるのではないのでしょうか。

人は、それぞれ得意・不得意があります。

不得意なことを出来るように努力することは大切なことですが、不得意な自分を責めるのではなく、「これが出来なくても自分は自分」と受け入れることも大切なことだと思います。

今まで着ていた、「人の期待に合わせる」というコートを脱いで、ありのままの自分を見つめ直し、その自分と素直に生きてみませんか？

平成30年 6月29日(金) 雨ときどき曇り

2週間の教育実習を終えた卒業生が今週で本校を去ります。3週間の卒業生はまだ残っ

ていますが。

この教育実習期間、どんな思いを持ってくれたのだろうか。

ぜひ、本県の教員になりたいという志望が強くなってくれたことを期待しています。

ところで、教員免許更新制度は、田舎にとって、都会との教育の機会均等を徐々に奪っていくひどい制度だと私は思っています。法律で決まっているから仕方ないですが、この国は人材教育を、田舎ではやらなくてもいいと言うのでしょうか？

昔なら、“資格は重荷にならないから取って置くか”程度で、多くの方が教員免許を取得しておいてくれた。それでも構わなかった。そして、「免許持っているなら勤めてもらえませんか？」と言えば、「ではいいですよ。」と言って、すぐに教壇に立ってもらえた。

ところがこの制度のおかげで、「教師をやってもらえないか。」と言っても、すぐにやってもらえない。

免許更新してなければできないからだ。

更新のために、5日間×6千円＝3万円の受講料と更新講習を受けた後の手続きに3千円、日数的にも、受講期間が限られているので、講習を受け、合格後、手続きも含めれば、少なくとも1年は掛かる。

さらに、指導の大変な学校からの講師のオファーならやりたくないと思われるだろう。そんなことなら。更新するのを辞めたほうがいい、無理して更新することないと思われるだろう。3万円かけて面倒なことをするくらいなら、更新しないほうがいいということになるだろう。

教科によっては、絶滅危惧教科が出てきそうだ。

以前、1年間ずっと探し続けて、見つからず、結局、授業を開講できなかったことを思い出す。そのとき、ハローワークに求人広告をすればよかったのだが、それ以前に、そうしたことで、私自身が痛い目にあったことがトラウマになっており、踏み出せなかった。

人探しに奔走しなければならないのは、火を見るより明らかである。

早くこの制度が無くなってくれないかな？と個人的に思うが、10年続いたから、もう無くならないのかな？

本当に深刻な問題だと思う。

“都市部ではすぐに見つかるから、何の問題もない”と答えられるだろう。自分たちには問題として降り掛かってこないからだ。

田舎には、物理的に人が居ない。子どもたちは、進学して、どんどん都会に出て行ってしまふ。便利な生活に慣れ、そして、田舎には、戻ってこない。鮭のように戻って来て欲しいが、一度便利な生活に慣れると無理だ。

教員は黙って、黙々と働く人種である。

文句は言われながらも、寡黙に働く人種である。

議員を使って、金に物言わせて、制度やルールを作られる職業の方たちとは、おおよそ正反対の人種である。教員は黙って言われるがままになっていくのだろうか。

国づくりは人づくり。

その人を作るための人材がいらない。とにかく、国を繋いでいく、地域を繋いでいくためには、これからの社会を背負っていく人材を育成していかなければならない。

急務だ。こんなことでいいのかと嘆いていても、時は過ぎていくだけか。  
何とかせねばと思う毎日で、力のない、金のない私には無力感だけが残るが、私のできることをやっつけていこう。

## 平成30年 6月28日(木) 雨ときどき曇り

今日は8の付く日。先生方、早く帰ってくださいね。  
昨日から今朝にかけて、少し雨が降りました。今も少し降っています。蒸し暑いです。  
昨日、エアコンを午後、入れました。さすがに4階は暑かった。今日は蒸し暑くて、熱がこもりそうです。熱中症にならないようにこまめに水分補給も忘れずに。

<教え子から学ぶ>②。

私がある学校で教えた生徒。この生徒は入学時から公務員志望。市役所勤務にあこがれていました。

2年生のとき、私が担任になった。

4月の二者面談のとき、「私は高校を卒業したら、市役所に勤めたいのですが、いいですか?」と聞かれた。

私は、「いいね。目標があって。頑張って」というような内容のことを言ったと思います。彼女は怪訝な顔をして、「いいんですか?」と言う。

“どうしてこんなことをいうのだろう”と理由がわからず、私自身“?”でした。

話していく中で、“この高校では、必ず大学進学をしなければいけない、大学受験をしなければならない”と、1年生のとき、担任の先生からずっと言われていたとのこと。

本人は、高校卒業後に就職することはいけないことだと思い込んでいて、その話をされて以来、その生徒は、気持ちがふさぎこんでいたというのでした。

私は、“高校を卒業してすぐに公務員になったって構わないし、むしろ目標を持って生きていることは素晴らしいことだ”というようなことを話しました。“ただ、公務員の試験は、絶対受かるという保証もないから、もし、受けさせてもらえるなら、大学受験もするというのもひとつの方法で、第1希望は公務員としておき、第2希望は大学進学とでもしておいたらどうだろうか”などと話した。“もし、3年生になって、僕以外の担任になって、理解してもらえない場合は、第1希望の公務員は内に秘めておいて、あなたの第2希望の大学受験を、名目上、第1希望にしたらどうだろうか”などとも話した。

今思えば、その場しのぎ?のアドバイスみたいでした。

私は次の年、転勤することになりました。

彼女にそのようなアドバイスをしたことをすっかり忘れて、何年か経ったある日、所用があつて、ある市役所を尋ねました。

受付で、書類交付の手続きをして、カウンターに持っていったときのことです。

「先生ですよ?〇〇高校のとき、2年生で担任をしてもらった△△です。覚えておられますか?」と言われ、一瞬、ドキッとしましたが、名前がすぐに出てきて安堵。ホッと胸をなでおろしました。何とその彼女でした。

時間があるかと言われたので、少し待っていると、休みを取ってわざわざ話に来てくれ

ました。

彼女の話だと、あれから、3年生になり、生徒全員が大学受験に向かっている中、やはり担任の先生の理解が得られず、公務員が第1志望であることを前面に出せなくて苦しかったとのことでした。

彼女は、私が言ったように、表向きは、第1希望は大学受験にしたとのことでした。でも、家では、9月の公務員試験に向けて、問題集や公務員対策の講座なども積極的に受けていたとも言っていました。

公務員試験に、無事、合格という通知をもらった後は、公務員になることは決めていたものの、大学にも受かりたいとの思いも強くなり、他の生徒と歩調をそろえて受験勉強を頑張りました。

その結果、自分が公務員になれなかったら行こうと決めていた大学にも合格することができたとのことでした。

でも、卒業後は合格した市役所の職員として就職したとのことでした。

まさか、私の言った言葉を実践していたとはびっくりでした。

生徒の進路相談だから、もっと、しっかりとしてあげるべきではなかったか、たまたまうまくいったけれど、今思うと、苦い思い出です。

今、彼女は活き活きと働き、若いながら、管理職として働いています。

私としては嬉しい限りですが、子どもたちの一生を左右する出口の指導には、もっと真剣に関わらなければいけなかったと、今は反省しきりです。

## 平成30年 6月27日(水) 雨ときどき曇り

昨日から今朝にかけて、少し雨が降りました。今も少し降っています。蒸し暑いです。

昨日、エアコンを午後、入れました。さすがに4階は暑かった。今日は蒸し暑くて、熱がこもりそうです。熱中症にならないようにこまめに水分補給も忘れずに。

5月21日にも書きましたが、あらためて「ピンチはチャンス？」。

ピンチはどう見てもピンチです。でも、気持ちを切り替えて、ピンチに真正面からぶつかってみてはいかがでしょうか。

それは次へのチャンスに、きつとつながります。

ピンチからいつも逃げてばかりいては成長もしないし、一生逃げ通せることなどあり得ません。ピンチを楽しめるような心の余裕がある、寛い心を持ちたいですね。

人はいろいろな場面に遭遇します。

ピンチは人を鍛えてくれます。ピンチに動ぜず、どのようにしたら解決するのか、させなければならないのかを常に考えることが大切です。

そのためには次の「かきくけこ」を大切にしてほしいです。

「かきくけこ」とは、すなわち“観察”、“記録”、“工夫”、“継続”、“心”です。

何事もじっくりと“観察”し、それを“記録”し、情報を蓄積する。その情報を元に、いかに“工夫”して、そのピンチから脱却するか。それを解決するかを考えましょう。

そして、“続ける”こと。さらに“心を込めて”。

どんなことも地道に続けていれば何かを得るものです。

“継続は力なり”です。

小さなことでも、粘り強く続ければ、何がしかの成果は得られるものです。

よい結果であろうが、悪い結果であろうが、続けてみて、初めて分かることもあります。

それが次の成功に導いてくれるはずです。

諦めず、こつこつと続けましょう。

誰にでもできそうですが、意外とできないものです。

でも、誰にでもチャンスはあります。

ずっとピンチばかりが続くわけでもないし、ずっと幸運が続くこともないと思います。

冷静に、頭を冷やして考えれば、必ず何かひらめきが頭に浮かんでくることでしょう。

## 平成30年 6月26日(火) 晴れ

今日も暑くなるようだ。昨日は県内で真夏日になったところもある。熱中症にならないようにこまめに水分補給をしよう。

### <教え子から学ぶ>①

3年生の担任のとき。

ある生徒T君。彼は自分の進路では、迷うことなく大学進学を目指していました。

秋頃。本格的に受験先や今後のことを考えている矢先、急にお父さんが交通事故に遭い、亡くなってしまった。

葬儀も終わってしばらくしてから、生活していかねばならないので、母親はパートに出ました。近くのスーパーです。

交通事故の補償もないまま、また、母親も専業主婦であったため、今後、金銭的に困窮するであろうから、はたして、進学してよいものかと、彼は途方にくれました。

それまで、父親の稼ぎが十分であったため、進学のために蓄えを残してあったわけではなく、安心しきっていたとのことでした。

まだ、下に妹弟2人います。

いろいろ、家庭で話し合ったのでしょう。彼は進学を断念することにしたと言ってきました。

今の母親の稼ぎでは、毎日の生活をしていくのがやっとだと、母親も涙ながらに話してくれました。

彼も泣く泣く進学をあきらめ、就職することにしました。

しかし、急な進路変更と、もう就職試験も終わっていたので、なかなか自分の希望する職種が探せませんでした。

母親を助けたいとのこともあり、何とか、近くの工場で働くことになりました。

でも、やはりいつかは進学したいから、勉強は細々とでもやっていくと彼は言っていました。しばらくして、風の便りで、一家はどこかに引っ越したとのこと。今どうしているのだろう。

その後、担任をしていく中で、親が、急にシングルで育てなければならない状況がでて



くる場合が多くなりました。

それを垣間見るたびに、女性でも男性でも、たとえシングルになっても子どもの夢をあきらめさせるような事態になってはいけないなと思っています。

そのためにも、とにかく、資格を取っておこう。資格を持っていることは重荷にはならないと思います。その資格が必要な職業に就いていれば、辞めた後でも、いつでも再就職が可能ではないかとも思っています。

## 平成30年 6月25日(月) 晴れ

暑くなるようだ。34℃の予報です。

先日6月23日は沖縄戦の終結の日。沖縄県が制定している「慰霊の日」である。

沖縄県民の4人に一人が犠牲となった太平洋戦争。

この慰霊の日に中学生の詩の朗読を聞きました。

感動しました。言葉の力を感じました。

全文がいろいろなところで紹介されていたので、打ちました。

ぜひ、読んでみてください。

「生きる」

沖縄県浦添（うらそえ）市立港川中学校3年 相良倫子（さがりりんこ）さん

私は、生きている。

マントルの熱を伝える大地を踏みしめ、心地よい湿気を孕んだ風を全身に受け、草の匂いを鼻孔に感じ、遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。

私は今、生きている。

私の生きるこの島は、何と美しい島だろう。

青く輝く海、岩に打ち寄せしぶきを上げて光る波、山羊の嘶き、小川のせせらぎ、畑に続く小道、萌え出づる山の緑、優しい三線の響き、照りつける太陽の光。

私はなんと美しい島に、生まれ育ったのだろう。

ありったけの私の感覚器で、感受性で、島を感じる。心がじわりと熱くなる。

私はこの瞬間を、生きている。

この瞬間の素晴らしさが、この瞬間の愛おしさが、今と言う安らぎとなり、私の中に広がっていく。

たまらなく込み上げるこの気持ちを、どう表現しよう。

大切な今よ。

かけがえのない今よ。

私の生きる、この今よ。

七十三年前、私の愛する島が、死の島と化したあの日。

小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。

優しく響く三線は、爆撃の轟（とどろき）に消えた。

青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった。  
草の匂いは死臭で濁り、光り輝いていた海の水面は、戦艦で埋め尽くされた。  
火炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣き声、燃えつくされた民家、火薬の匂い。  
着弾に揺れる大地。血に染まった海。  
魑魅魍魎の如く、姿を変えた人々。  
阿鼻叫喚の壮絶な戦の記憶。  
みんな、生きていたのだ。  
私と何も変わらない、懸命に生きる命だったのだ。  
彼らの人生を、それぞれの未来を。  
疑うことなく、思い描いていたんだ。  
家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。  
仕事があった。生きがいがあった。  
日々の小さな幸せを喜んだ。手を取り合って生きてきた、私と同じ、人間だった。  
それなのに。  
壊されて、奪われた。  
生きた時代が違う。ただ、それだけで。  
無辜の命を。あたり前に生きていた、あの日々を。  
摩文仁の丘。眼下に広がる穏やかな海。  
悲しくて、忘れることのできない、この島の全て。  
私は手を強く握り、誓う。  
奪われた命に想いを馳せて、心から、誓う。  
私が生きている限り、こんなにもたくさんの命を犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを。  
もう二度と過去を未来にしないこと。  
全ての人間が、国境を越え、人種を越え、宗教を越え、あらゆる利害を越えて、平和である世界を目指すこと。  
生きる事、命を大切にできることを、誰からも侵されない世界を創ること。  
平和を創造する努力を、厭わないことを。  
あなたも、感じるだろう。  
この島の美しさを。  
あなたも、知っているだろう。  
この島の悲しみを。  
そして、あなたも、私と同じこの瞬間を一緒に生きているのだ。  
今と一緒に、生きているのだ。  
だから、きっとわかるはずなんだ。  
戦争の無意味さを。本当の平和を。  
頭じゃなくて、その心で。  
戦力という愚かな力を持つことで、得られる平和など、本当は無いことを。  
平和とは、あたり前に生きること。  
その命を精一杯輝かせて生きることだということ。

私は、今を生きている。  
みんなと一緒に。  
そして、これからも生きていく。  
一日一日を大切に。  
平和を想って。  
平和を祈って。  
なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。  
つまり、未来は、今なんだ。  
大好きな、私の島。  
誇り高き、みんなの島。  
そして、この島に生きる、すべての命。  
私と共に今を生きる、私の友。私の家族。  
これからも、共に生きてゆこう。  
この青に囲まれた美しい故郷から。  
真の平和を発進しよう。  
一人一人が立ち上がって、みんな未来を歩んでいこう。  
摩文仁の丘の風に吹かれ、私の命が鳴っている。  
過去と現在、未来の共鳴。  
鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。  
命よ響け。生きゆく未来に。  
私は今を、生きていく。

## 平成30年 6月22日(金) 晴れ

朝は涼しいけど、これから30℃を超える暑さになるとの予想です。

いよいよ夏か？

いや、その前に、梅雨明けの大雨がないと？

そんなの困るなあ。

とりあえず、本日はこまめに水分補給をしましょう。

また、本日3年生は校外研修で京都方面へ行きます。月曜日に大阪の北部で地震があったので心配です。から暑いですね。

教育実習生も1週間で終わりました。早いものですね。この1週間でどんなことを感じてくれたのでしょうか？

一昨日、ある方とお話していた中で、ドキッとすることがあり、気になったので書きます。

昨今、携帯電話やスマホを操作することが多くなっていませんか？

そのときのあなたの姿勢ってどうでしょうか？

画面を見るために下向き、つまりうつむき加減になってはいないでしょうか？

これをずっと続けていると、あなたの脳は、あなたの体の状況を察して、ふさぎこんで

いる状態、言い過ぎかもしれないが、うつ状態だと認識し、体が不調になることもあるのではないかということです。

確かに、体が勘違いするのも頷けます。

話が少しずれているかもしれませんが、私が以前担任していた生徒で、暗い雰囲気、生徒たちも声をかけづらく、いつも一人でいる生徒がいました。いきがっているのではなく、多分、自信がないので、髪の毛を前に垂らし、額はおろか、眼まで髪を伸ばして隠し、さらには下を向いてうつむきかげんにしているのではないかと推測しました。

傍目にも、元気がなさそうにしていたし、よく、体調不良を訴え、よく欠席や遅刻、早退をしがちでした。

担任としても気になり、よく懇談をしました。

なかなか自分の本音を出してくれなかったのですが、やがて、時が経つにつれ、徐々に打ち解け、話してくれるようになりました。

懇談していく中で、やはり、“誰かに見られている”とか、“どういう風に言われているのか不安で仕方がない”などと言っていました。

私自身も、“自分でも、どういように見られるのか、また、じろじろと見られているのではないか”と思いつぎるところがあります。自分でも引っ込み思案なのに、他人には、冷静を装って、偉そうに言ってしまいました。

「君が思っているほど、他人は、君に関心なんか持ってないし、意外と見てないんだよ。」とか、「どうせ生きていくんだったら、髪を上げて、顔をしっかり出して、堂々と胸張っていこうか？」などとも言いました。

その後、すぐには、彼もなかなか変わりませんでした。ある日、前髪を少し切り、額を見せて、学校にやってきました。

しばらくすると、少しずつ、クラスの仲間と話ができるようになっていました。

さらに、見ていると、話の輪の中心にいることが多くなったのです。

彼の笑顔が増え、ますます活発になり、元気になり、当然、体調不良を訴えることなど無くなりました。

一昨日の会話の中で、多少違うかもしれませんが、ふと、このことを思い出しました。

人は脳でコントロールされて生きているんだ、姿勢って大事だなあって、改めて感じました。

ここらで、ちょっとスアホから離れて、上を見上げ、視線を上方にして、堂々と胸を張ってみよう。目を開いたら、今までと違った世界が広がっているかもしれませんよ。

脳には、“私は元気だよ”って思わせましょう。

## 平成30年 6月21日(木) 雨のち晴れ

今日は夏至。梅雨に入ってから晴天が長続きせず、昨年同様、また、野菜が高騰するのではないかと懸念しています。

人それぞれの個性。

その特性を個性として見極め、生きる術をつけて上げるのが、親であり指導者なのかも

しれませんね。

誰でもできないことはある。不得意なこともある。不得意なことを得意にすることも大切かもしれませんが、得意なことを伸ばすことでそれが生きていく力になればいいと思う。こんな先生っていいなっていう文を見つけたので読んでみてください。

小学生のとき、やや知的に遅れのあるA君がいた。

足し算、引き算の計算や、会話のテンポが少し遅い。でも、絵が上手な子だった。

彼は、よく空の絵を描いた。抜けるような色遣いには、いつもびっくりしていた。

担任のN先生は算数の時間、解けないと分かっているのに、答えをその子に聞く。なんてひどい先生だと、子どもながら思った。

A君は、冷や汗をかきながら、指を使って、「ええと、ええと…」と、答えを出そうとする姿を、周りの子どもたちは笑う。

N先生は答えが出るまで、しつこく何度も言わせた。

そんなN先生が、私は大嫌いだった。

クラスもいつしか代わり、私たちが小学6年生になる前、N先生は違う学校へ転任することになったので、全校集会で先生のお別れ会をやることになった。児童代表でお別れの言葉を言う人が必要になった。

先生に一番世話をやかせたのだから、「A君が言え。」と、言い出したお馬鹿さんがいた。

お別れ会で一人立たされて、どもる姿を、その彼は期待したのだ。ひどいやつだ。

でも、私は、そのお別れ会のA君の言葉を忘れない。

「ぼくを、普通の子と一緒に勉強させてくれて、ありがとうございました。」

A君の感謝の言葉は10分以上にも及んだ。

“水彩絵の具の色の使い方を教えてくれたこと”、“放課後つきっきりでそろばんを勉強させてくれたこと”など。

その間、おしゃべりをする子どもはいませんでした。

N先生がぶるぶる震えながら、嗚咽をくいしばる声が、体育館に響いただけでした。

教員が少なく、子供たちが家から2時間ほどかけて登校しなければならないような過疎地へ、N先生は自ら望んで赴任されたそうです。

N先生のお家には、毎年夏に、A君から絵が届くそうです。

A君はその後、公立中高を経て、美大に進学しました。

お別れ会でのN先生の挨拶が思い浮かびます。

「A君の絵は、ユトリロの絵に似ているんですよ。みんなはもしかしたら、見たこと無いかも知れない。ユトリロっていう、フランスの人でね、街や風景をたくさん描いた人なんだけど。空が、綺麗なんだよ。」

「A君は、その才能の代わりに、他の持ち物がみんなと比べて少ない。だけど、決して取り戻せない物ではないのです。そして、A君はそれを一生懸命自分のものにしようとしています。これは、簡単なことじゃありません！」

A君は、空を描いた絵を送るそうです。その空はN先生が作り方を教えた、美しいエメラルドグリーンだそうです。

先日、デパートのポストカードに美しい水彩画と、A君のサインを発見いたしました。

N先生は今、僻地の小学校で校長先生をしているそうです。

## 平成30年 6月20日(水) 雨

朝から雨。大雨注意報が出ています。

地震のあとによく雨が降ります。なぜかその印象が強いです。

昨日、SGH 講演会がありました。1, 2年生対象ですが、飛騨古川の渡邊酒造店のコディさんと木元さんが見えになりました。アメリカから日本やってきて、杜氏として日本で頑張っているコディさん。その方がいるのを知って、地元飛騨に帰ってきた木元さん。いろいろな話が聞け、また、生徒が英語で質問をし、コディさんも英語で答えてくれました。とても意義のある講演会でした。

その中でやはり海外で働くグローバルというのもキーワードだけれど、もうひとつは、地元に戻るということも、キーワードなのかなとも思いました。

コディさんはアメリカから日本の伝統に挑戦している。まさしくグローバルだ。

でも、生活のために、仕事をしなければ生きていけない。仕事は何があるのかいろいろ探したのであろう。それが杜氏だったのかも。

木元さんは、大学では地元を離れた。

彼女はたまたま戻って来たけれど、田舎から出て行った多くの生徒は、大半はそこで就職する人が多いのかな？

なぜならば、戻ってくるにも、地元における情報収集や就職活動にもものすごいエネルギーとハンディを背負う。それが面倒なので、行った先の近辺や都会の便利な生活に浸って、就職は、結局、そのあたりで落ち着くのだろうか？

田舎にとっては、これは由々しき問題である。子どもがどんどん流出し、ゆくゆくは限界集落になってしまうだろう。ある自治体では、進学に熱を入れすぎたがために、子どもが出て行ってしまい、子どもたちが戻って来ず、町が消滅してしまっただころもあると聞く。やはり出て行っても、安心して戻ってこられるような準備を自治体も含めて考えるべきかな。

就職先がある、働き先があるって大事ですね。

今、地域循環型社会を構築していかないといけないと思って少しでも君たちの多くが戻ってこられるようにしたいと考えています。そうしないと町は無くなってしまいます。

でも、最近、インターネットの普及で、その場所にいなくても在宅ワークができるようになっていっている。だから、地方だとか、都会だとか。あまり関係なく仕事ができるようになっていくのかな。

今、産後休暇や育児休暇など、仕事場から物理的に離れなくてはいけないことがあるけれど、ひょっとすると、在宅ワークになれば、特段に休暇をとらなくても、仕事は家で子どもを面倒見ながら可能になるのではないだろうか。

まさしく働き方改革なのかな？

直接、人と人とが接しなければならぬような仕事はしかたがないけれど、そうでなければ、webカメラなどのTV会議システムを使っただけの会議などで対応できれば、出張だって

しなくていいし、時代はこれから大きく変わるのではないかと思う。  
これからの世の中の変化が楽しみでもある。

## 平成30年 6月19日(火) 晴れのち雨

昨日は大阪で大きな地震がありました。何かあるとすぐ滞ってしまう現代。  
明日は何があるかわからない。毎日悔いのないように生きなければ。

2人で一緒にいると、喜びは2倍になり、悲しみは半分になる。  
他人の喜びを、自分のものと思えば、喜びは2倍になる。  
他人に嫉妬すれば、その喜びは半減する。  
喜びのおすそ分け。  
どんな人の喜びも、自分のことのように喜べば、自分も幸せになれる。

ところで、今は、家族と一緒に住んでいる子どもたち。  
でも、今後、下宿したり、親から離れたりしたら、あと何日、親と会える日があるの  
だろうか？

学生や社会人で一人暮らしをしている人は、年に何日、実家に帰ってるかな？  
仮に、仕事が忙しくて、お盆休みに3日、正月休みに3日の、年間6日くらいの人もい  
るだろう。

親が今40代後半とする。  
男性、女性の平均寿命から考えて長くてもあと30年。  
単純計算すると、あと $6 \times 30 = 180$ 日くらいしか会えないことになる。  
考えてみたら、もう半年しかない。  
考えてみると、あまりない。  
いつ亡くなるかわからないから、実際はもっと短いのではないだろうか？  
今を大切にしなければいけないね。

こんな文章を見つけました。読んでみてください。

私の母は昔から体が弱くて、それが理由かは知らないが、母の作る弁当はお世辞にも華  
やかとは言えないほど質素で見映えの悪い物ばかりだった。

友達に見られるのが恥ずかしくて、毎日、お弁当はゴミ箱へ捨てていた。

ある朝、母が嬉しそうに「今日は、〇〇ちゃんの大好きな海老入れといたよ。」と、私に  
言ってきた。

私は生返事でそのまま学校へ行き、こっそり中身を確認した。

すると確かに海老が入っていたが、相変わらず彩りも悪いし、とても食べられるもので  
はなかった。

家に帰ると、母は私に、「今日の弁当美味しかった？」と、しつこく聞いてきた。

私はその時、イライラしていたのと、いつもの母の弁当に対する鬱憤も溜っていたので、  
「うるさいな！ あんな汚い弁当捨てたよ！ もう作らなくていいから。」と、つい、き

つく言ってしまった。

母は悲しそうに、「気付かなくてごめんね…。」と言った。目には涙が浮かんでいた。

それから、母は弁当を作らなくなった。

半年後、母は死んだ。

私の知らない病気だった。

母の遺品を整理していたら、日記が出てきた。

中を見ると、弁当のことばかり書いていた。

「手の震えが止まらず、上手く卵が焼けない…。」

日記はあの日で終わっていた。

後悔で涙がこぼれた。

## 平成30年 6月18日(月) 雨のち晴れ

朝から雨。

昨日は40数名ほどの保護者、生徒の除草ボランティアが集まりました。皆さん、本当に一生懸命で、短時間なのに、あっという間に、多くの場所がきれいになりました。ありがとうございました。

さて、今日から教育実習が始まりました。

私自身、30数年前のことを思い出します。

いろいろあって、教育とは縁のない学部から教員を目指しました。人に教えることは好きだったので問題はなかったのですが、他人より遅れて教育実習に行きました。

実習のオリエンテーション。

知り合いもなく、さびしい思いの中、温かく迎えていただいた指導教官のS先生や実習仲間。そして、実習中には温かく見守ってくれていることを肌で感じさせてくれた母校の生徒。

人って、人の中で生きているんだなって実感させてもらえました。すぐに皆と打ち解けました。

あの2週間で本当に、“教員になりたい”と思えました。

あのときの実習ノート。その最後に、「君といつか同じ学校で働いてみたい。」と書いてくれた指導教官のS先生。

その十数年後に、そのことが現実になるとは夢にも思いませんでしたが、実際に起こって本当にびっくりしたことを昨日のように覚えています。

本当に“縁”を感じます。S先生とは2週間の接点だったのですが、実習中、いろんなことを教えてもらい、物理的な2週間という時間以上の濃密な時間を過ごさせてもらいました。

他の実習生以上に、授業を受け持たせてもらいました。演習や講義など少なくとも20時間以上はさせていただいたような記憶です。ますます教員になりたいと思わせてくれた先生に本当に感謝です。

ただ、いまだに、教員が、私に向いているのか、向いていたのかはよくわからないまま、



来てしまいました。でも、ここまでやってこられたということは、向いていたのかなと思いたいな。

実習生の皆さん。ぜひ、実習を通して、教員になりたいという意をさらに強くしてください。教師って楽しいですよ。この年になると、若い生徒諸君からいっぱいエネルギーをもらっていると実感します。

さらに、もっと言うと、岐阜県の教員になってもらい、この地域の子どもたちの教育に携わって欲しい。“教育の地域循環”。

今、私の中でも、“将来の地域をさせる教員をいっぱい作ろうキャンペーン”を実施しています。

本校の生徒が世界へ飛び出すグローバルな人材と、地域の核となるローカルな人材の両方を育てたい。いわゆる、“グローバル人材”を育てたいと考えています。

でも、まずは、教育実習を通して、人に教えることや子どもたちと関わることの大変さ、楽しさを味わい、私たちの仲間になりたいと思って欲しいなあ。

## 平成30年 6月15日(金) 曇りのち雨

梅雨らしく今日は雨が降りそうです。

17日は、“ボランティア除草”があります。

保護者の方だけでなく、生徒の皆さんも自主的に出てくれる子もいて、嬉しい限りです。日曜日は、天気もそこそこ、よさそうですが、暑くなる予報で、熱中症にならないように注意して行きたいです。

ちょっと一服。

<素晴らしい友人>

私が財布から紙幣を出していると、表のガラスドアが開いて、5、6歳くらいの女の子が店に入ってきた。

顔を赤くし、必死の面持ちで、

「あのう、すみません。」

と言った。私の相手をしていた店員の女性が、

「はい。」

と言って、女の子の方に向き直ると、女の子は、

「あのう、イチゴのショートケーキはひとつ何円でしょうか」

と丁寧な口調で尋ねた。

「430円です。」

女の子はかわいらしい財布の口を開け、200円、300円・・・、と声を出して、お金を数えていたが、

「ああ。ないー。」

と、悲しそうな声を出した。

そして、「どうもありがとうございましたー。」

と、泣きそうな顔で言うと、財布の口も閉めず、一礼してガラスドアの方へ向かって駆

け出した。

すると、女の子はドアの前で人とぶつかり、財布からお金がばら撒かれてしまった。

ぶつかった相手を見ると、なんと、一緒に来た私の友人だった。

友人も、急いで屈み込むと、

「ああ、ごめんね」

と言いながら、女の子と一緒にお金を拾い集め出した。

「200円、300円、400円……。あれえ、ほら、480円あるじゃないの？」

「チーズケーキが買えるね。」

と、友人は、女の子の小さな手に、拾ったコインを渡ししながら、微笑んで言った。

「あれえ、本当だー?!」

と女の子は、不思議そうに、でも、きらきらした目で言った。

「だめだよ、きちんと数えなきゃ。」

と、友人はやさしい笑顔で言った。

女の子は嬉しそうにコインを握りしめ、私のうしろに、また並んだ。

どうやら、女の子はケーキを買うことができるようだった。

## 平成30年 6月14日(木) 晴れ

梅雨の合い間のひと時の中休み？さわやかな風が吹き、気持ちのよい朝を迎えました。

また、今日は美濃加茂西中学校の保護者70名ほどの方が本校を訪問されました。ぜひ本校の一端を見ていただいて、進路選択の一助としてください。

関高校は、安心してお子様を預けてもらえる学校と自負しています。

さて、話は替わりますが、とてもいい話を目にしましたので紹介します。

<親切のチェーン>

北海道でのある出来事です。

終電の発車間際に切符なしで飛び乗り、車掌さんが回って来た時に切符を買おうと財布を出そうとしたが、財布がなかった。小銭入れもない。

どこかで落としたのだろうか。

途方に暮れたけれども、そのことを正直に車掌さんに言いました。

「すみません。明日、必ず営業所まで行きますから、今日は乗せてください」

ところがこの車掌さん、なかなか許してくれない。当然ですが、「次の駅で降りろ。」と言うのです。

次の駅で降りても家に帰る手段はない。

ホームで寝るにすれば、北海道の夜は寒過ぎる。

どうしようもなく困っていたら、横に座っていた同じ年格好の中年の男性が回数券をくれたのです。

「お礼をしたいから。」と言って、その男性に名前や住所を尋ねたけど、ニコニコ手を振って教えてくれない。

最後は、借りたことを忘れて、「なぜ教えてくれないのか。」と文句を言ったら、次のよ

うな話をしてくれたのです。

「実は私もあなたと同じ目に遭って、傍に居た女子高校生にお金を出してもらったんです。

その子の名前を何とか聞き出そうとしたけれど、絶対に教えてくれない。

すると彼女がこういうのです。

「おじさん、それは私のお小遣いだから返してくれなくて結構です。」

「それより、今、おじさんが『お礼だ。』と言って私に返したら、私とおじさんだけの親切のやり取りになってしまいます。」

「もし私に返す気持ちがあったら、同じように困った人を見かけたら、その人を助けてあげてください。そうしたら、私の一つの親切がずっと輪になって北海道中に広がります。

そうするのが、私は一番嬉しいんです。そうするようになって、私、父や母にいつも言われてるんです。」

と私に話してくれました。

いい親御さんですね。子どもは親の背中を自然と見ていると思います。また、それを実行しているこの高校生もできた人やね。いい教育をしていますね。自分を振り返ってみると、親として子どもにいい背中を見せてきたのかと自問しました。

“できる人”と言われると嬉しいですが、“できた人だ”と言われると、もっと嬉しいかもしれませんね。

## 平成30年 6月13日(水) 晴れ

梅雨の中休みか、はたまた、夏の到来か、熱さを感じます。多治見では昨日、30度を越え、真夏日。今日も越えそうとのこと。

昨日、薬物乱用防止講話がありました。さすが関高校の生徒だとお褒めの言葉をいただきました。しっかりと聞くことは当然ですが、話し手が一生懸命話したくなる雰囲気を作ってくれていたとのこと。嬉しかったです。最後に生徒会長のお礼の言葉。いつもすごいなって感心して聞いています。

テストも終わり、久々にグラウンドや体育館などから生徒の元気な声が聞こえて、学校らしい日常が戻ってきました。

2年生40名ほどが小中学校に出かけていった一日インターンシップ。

各小中学校に温かく迎え入れていただき、感謝です。また、とても好印象で、好評で、お礼の言葉まで頂き、やってよかったと思っています。参加してくれた生徒の皆さんの活躍に感謝です。

昨日、帰り際に、「いつも関高ダイアリー読んでます。」と声をかけてくれた彼女。私が書いていることを、どのように知ったんだろう。何か嬉しくて、動揺して、名前を聞くのを忘れてしまった。またの機会がいいので教えてください。

私を元気付けてくれて、ありがとう。

こんな文章を見つけました。読んでみてください。

「私を大学に通わせてくれた母へ」

あなたは私を産むまで、ずっと父の暴力に苦しんでいましたね。

私が産まれた時、あなたは泣きながら喜んだんですね。

私が一歳の誕生日に、借金を抱えたまま、父が自殺しましたね。

借金を返すために、昼はパート、夜は居酒屋で、仕事の毎日でしたね。

保育園では、遠足のおやつは雑穀のおはぎでしたね。

小学校の給食費を払えない月もありましたね。

修学旅行のおみやげは、ご当地キーホルダーだけでしたね。

中学の制服は、親戚のおさがりでしたね。

高校のお弁当は、いつもご飯に梅干しと海苔でしたね。

無理を承知で、大学に行きたいと頼んだ時、あなたは反論しませんでしたね。

ごみ処理場から、捨てる予定の参考書をもらいに行きましたね。

お金がかかるから私立は受けられず、国立専願受験でしたね。

センター試験の前日には、初めて特上寿司を食べさせてくれましたね。

センター試験に失敗したけど、あなたは最後まで諦めないよう励ましてくれましたね。

前期に落ちて、一度私は自殺しかけましたね。

あなたは怒ることもなく、ずっと私に謝り続けていましたね。

私もあなたにずっと謝り続けましたね。

そして、私は気持ちを切り替えた後、その後も頑張って勉強して、なんとか後期に合格することが出来ましたね。

あなたは、ずっと「おめでとう、おめでとう」と泣き続けてくれましたね。

でも、あなたは入学の準備の時に、急に倒れて病院に運ばれましたね。

医者が、癌が全身に転移していて、これから一週間が峠だと告げましたね。

私が、ただただ泣き続けている時に、あなたは

「この体の傷や癌の一つ一つが、あなたを育てあげた立派な勲章なのよ」

と微笑みながら、言いましたね。

あなたは最期まで、泣くことも、苦しむこともなく、静かにこの世を去りましたね。

今、私は医者になるために、毎日、一生懸命に勉強していますよ。

あなたの命を奪った癌に苦しむ人々を治療して助けたいから。

私が育った環境は、決して恵まれてはいなかったけれど、あなたに生まれ、育てられて本当によかったよ。

ありがとう、お母さん。

親の子に対する無償の愛。

決して見返り、代償を求めない。

子どもには、してもらわなくていい。親が子にさせてもらうだけで十分です。子にしてあげられることが親の喜びです。

私のところに生まれてきてくれてありがとう。数ある人の中で、偶然にも私を選んでくれた。それだけで十分です。

子を育てさせてもらえるのが喜びです。

だから、いつも言うようだけれど、子どもは、まだ見ぬ自分の子どもに愛をささげてくれればいいです。

私たち親は、もうすでに私たちの親から十分に愛をもらったから大丈夫です。

子どもからもらう必要はありません。

愛を順に送ってくれれば、それでいいのです。

私はそう思います。

## 平成30年 6月12日(火) 晴れ

台風が接近しつつありましたが、それたようです。

中間考査最終日。

朝、PTAの大学見学会で静岡大学へ70名ほどが出かけました。保護者の方の進学に対する関心の高さに驚いています。

また、本日、2年生の約40名が美濃地区内の中学校や小学校にいわゆる一日インターシップに出かけます。いい思いを持ってくれるといいなあ。

<しょっぱい豆>

ご主人が交通事故を起こし、加害者となり、亡くなりました。

残されたのはお母さんと子供たち、上の子が小学2年生、下の子が5歳の男の子の兄弟でした。

この方たちは、事故の補償などで家も無くなり、土地も無くなり、住む家もやっとのことで四畳半の狭い所に住めるようになりました。

お母さんは朝6時30分から夜の23時まで働く毎日です。

そんな日が続くある日、三人でお父さんの居る天国に行くことを考えてしまっていました。

以下、お母さんの手記から引用です。

朝、出掛ける前にお兄ちゃんへ置き手紙をした。

「お兄ちゃん、お鍋にお豆が浸してあります。それを煮て、今晚のおかずにしなさい。お豆が柔らかくなったら、お醤油を少し入れなさい」

その日も一日働き、私は本当に心身共に疲れ切ってしまった。

みんなでお父さんのところに行こう。

私はこっそりと睡眠薬を買って来た。

二人の息子は、粗末な布団で、丸く転がって眠っていた。

壁の子供たちの絵に少し目を遣りながら、枕元に近付いた。

そこにはお兄ちゃんからの手紙があった。

「お母さん、ぼくは、お母さんのてがみにあったように、お豆をにました。

お豆がやわらかくなったとき、お醤油を入れました。

でも、けんちゃんにそれをだしたら、

『お兄ちゃん、お豆、しょっぱくて食べられないよ』  
と言って、つめたいごはんに、おみずをかけて、それをたべただけでねちゃった。  
お母さん、ほんとうにごめんなさい。  
でもお母さん、ぼくをしんじてください。  
ぼくのにお豆を一つぶたべてみてください。  
あしたのあさ、ぼくにもういちど、お豆のにかたをおしえてください。  
でかけるまえに、ぼくをおこしてください。  
ぼく、さきにねます。あした、かならずおこしてね。  
お母さん、おやすみなさい」  
目からどっと、涙が溢れた。  
お兄ちゃんはあるに小さいのに、こんなに一生懸命、生きていてくれたんだ。  
私は睡眠薬を捨て、子供たちの枕元に座りました。  
そしてお兄ちゃんの煮てくれたしょっぱい豆を、涙と共に一粒一粒、大事に食べました。

交通事故は被害者家族だけでなく、加害者家族も不幸です。  
あらためて、交通事故は、しないように、あわないように、細心の注意を払っていき  
たいと思いました。

そういえば、教員になってすぐの担任のときだったかな？、ある家庭に訪問しなければ  
ならない事情がありました。

その母親には、頑なに拒否されたものの、私としてはルールだからの一点張りで、向こ  
うの気持ちも考えないで、押し切って、家庭訪問することにしました。

その家庭に行ってびっくりしました。

土蔵の中に箆を敷いて、みかん箱のテーブル。

その中で勉強をしている子。

よく聞いてみると、夫のひどい家庭内暴力に耐えかねて、離婚され、実家に戻ってきた  
ものの、弟夫婦が家にいて、居る場所がない。でも、行く場所もお金もない。

やむなく空いていた蔵。

窓も冷房もなく、“夏は大変な思いをしていたのだろう”と想像はつきます。

母親にとって、この現状を見せたくなかったのだろう。

それを強引に、“ルールだから”と言って、突破してしまった私は、“何と情けのない人  
間なのだろう”と、情けなくなって、自分を責めた。

そう言えば、私自身にも思い出すことがあった。

小中学校では家庭訪問があります。

母が亡くなった後、雑然とした時間と空間の中で、家庭訪問は、“家の中の子どもの勉強  
環境を見る”という理由？で、家の奥の内部まで見られたことを思い出し、自分にとって  
本当に不愉快で、“家庭訪問なんかなくなればいいのに”と思っていた自分がいました。そ  
んなこともすっかり忘れ、される側ではなく、する側になった途端に忘れてしまっていた  
自分がいました。本当に情けない。

これらのことを肝に銘じ、この後、家庭訪問するときは必ず、相手の都合、意向を伺い、

無理強いすることはなくしましたし、よくある、家庭での反省は、学校での反省に切り替え、“学校で学習させた方が効果がある”と確信もしましたので、できる限りそのようにしてきました。ただ、保護者の中には、“家庭でもう一度見直したい”と言われる方もありましたので、そのときは申し出通りにさせてもらいました。

いずれにせよ、相手の立場、気持ちを察することはとても大事だし、コミュニケーションをとる上でもとても大切なことです。この感情は人にしかありえないですよ。

## 平成30年 6月11日(月) 曇りのち晴れ

台風が接近しつつありましたが、それるようです。ただ、そのせいで生暖かい空気が流れ、蒸し暑くなっています。

中間考査3日目。無事迎えられています。

アメリカの、とある地方に野球観戦の大好きな、でも、目の見えない少年がいました。

少年は大リーグ屈指のスラッガーである、ある選手にあこがれています。

少年はその選手へファンレターをつづりました。

「ぼくは、めがみえません。でも、毎日あなたのホームランをたのしみにしています。しゅじゅつをすれば見えるようになるのですが、こわくてたまりません。あなたのようなつよいところがほしい。ぼくのヒーローへ。」

少年のことがマスコミの目にとまり、二人の対面が実現することになり、カメラのフラッシュの中、ヒーローと少年はこう約束します。

“今度の試合でホームランを打ってくれば、少年は勇気をもって手術に臨む”、と。

そして、その試合、そのヒーローの最後の打席。

3ボール2ストライク。いよいよ最後の一球か？

テレビや新聞を見た多くのファンが、スタジアムで固唾をのんで見守っています。

少年自身も、テレビの中継を祈る思いで聞いています。

ピッチャーが投げた最後のボールは……。

無常にも、大きな空振りとともに、キャッチャーミットに突き刺さりました。

全米から大きな溜め息が漏れようとした、正しくその時、スタジアムの実況が、こう伝えました。

「ホームラン！ 月にまで届きそうな、大きな大きなホームランです！」

なんとすばらしい対応。咄嗟に思いつかないですね。思わず拍手。いい話ですね。

## 平成30年 6月 8日(金) 晴れのち雨

今日は8の付く日。先生方、早く帰ってくださいね。

朝は晴れているけれど、これから雨が降るようです。梅雨に入ったので、天気不安定です。

普段、地球上に生きていて、地面が移動しているなどとは感じませんが、地球は自転、太陽の周りを公転しています。

#### <地球の自転速度>

地球を球と仮定し、24時間で1回転するとします。

緯度0度つまり赤道上にいる人にとって、自転速度は最大である。最大の自転速度は、 $\text{最大自転速度} = \text{赤道の周長} \div \text{自転1周にかかる時間}$ です。赤道面での直径を12,800 kmとすると、 $\text{赤道の周長} = \text{赤道面での直径} \times \pi \approx 40,000 \text{ km}$ なので、 $\text{最大自転速度} = 40,000 \div 24 = \text{時速} 1667 \text{ km}$ 、即ち時速およそ1700 kmとなります。

音速が分速約340m、時速1225 kmなので、地球は超音速で自転していることとなります。

日本の北緯を35度とすると、難しい計算は省いて、約時速1374 km。日本に暮らす人にとって、地球の自転速度は、時速およそ1400 km。やっぱり超音速です。

#### <地球の公転速度>

次に、地球の公転速度を求めてみます。ほんとうは楕円軌道で、軌道はやや揺らいでいますが、仮に円軌道だとします。

地球と太陽の距離を150,000,000 kmとすると、  
 $\text{公転軌道の長さ} = 2 \times \text{地球と太陽の距離} \times \pi = 942,000,000 \text{ km}$ 、  
地球は1年で太陽の周りを1周すると、

$$\text{公転速度} = 942,000,000 \div (365 \times 24) = 107,534$$

およそ時速10万 km、3600秒で割ると、秒速約28 kmです。

人類がつくった最速ののりものであるスペースシャトルは秒速8 kmだそうです。

ちなみに、太陽系は秒速217 kmで銀河系を公転しているそうです。

考えてみると、すごい速度で移動中の物体に乗っかって生きているのですね。

そこにとまっていることが不思議なくらいです。

## 平成30年 6月 7日(木) 雨のち晴れ

少し雨が残ったものの、晴れ間があり、暑かったです。

今日から前期中間考査です。この1週間、朝、登校後から皆の勉強に励む姿に、「すごいなあ。」と感心させられるとともに、勉強した分だけ成果が出て欲しいと思いました。ただ、ビギナーズラックではなく、躓いて、次は二度と失敗しないように、竹の節を作って欲しいなあ。複雑な思いです。

ところで、君たちは、将来の夢を持っていますか。

一人ひとりの子どもたちが、将来に夢と希望を持てるようにするためには、どうすればよいのでしょうか。

社会がどんなに変化し、どんな時代を迎えたとしても、“生きていく力”が備わっていれ



ば、人生の選択の幅が広がり、自分の希望する進路を自分で選び取ることが可能なのです。そのことを、われわれ大人は子どもたちにしっかりと伝える義務があります。

「〇〇になりたいけど、△△の力がないから諦めざるを得ない」。

そんな消去法で進路を決めるのではなく、たくさんの選択肢の中から、自分自身で希望する進路を選び取って、自分の夢を実現してほしいと思います。

子どもたちが自分なりの夢や希望を持ち、それを実現しようと頑張れるためにも、われわれ大人自身が変わらなければなりません。

大人自身に“生きていく力”がなく、夢を持っていないのに、子どもにだけ、“生きていく力”をつけろ、“夢”を持てと言っても、説得力がありません。

家庭の中で、地域の中で、自信にあふれた元気な大人の姿、いくつになっても成長していく、喜びにあふれた、生き生きとしている大人の姿を、子どもたちに見せようではありませんか。

大人に、「人生ってすばらしい！」という充実感がみなぎっていれば、子どももきっと「人生ってすばらしいんだ」と思ってくれるに違いありません。

大人は（親は）子どもの鏡です。そのためにも、生き生きとした、元気な大人となり、子どもたちの手本とならなければ・・・、と、自分に鼓舞しています。

こんな詩があったので載せます。

子どもは、自分のことを分かってくれる人のために伸びようとするのです。

子どもは、自分のしたことを本当に喜んでくれる人のために伸びようとするのです。

そしてまた、その人の笑顔を見たくて、がんばるのです

その人とは、もちろん、親のことです。

## 平成30年 6月 6日(水) 雨

雨が降りました。今日、入梅のようです。

体中がべたつくようで不快感たっぷり。来週あけ、台風が接近かという情報もあり。注意したいです。

話は変わりますが。

席替えのくじを引くとします。

「くじを引いたのに席が、前（の位置）と変わっていない。」という言葉をときどき聞きませんか？

くじをランダムに引いて、少なくとも一人は、前と同じ席である者の確率は一体どれくらいだろうか、知っていますか？

難しいことは抜きにして、結論だけ言うと

$$1 - (1/e) \doteq 1.718/2.718 = 0.632。$$

（理系で数学Ⅲを取っている者ならご存じの、 $e$ は数学Ⅲの教科書に出てくる自然対数

の底です。)

つまり、約63%の確率で起こるということです。この確率を考えると、かなり高い。つまり、かなり起こりやすいということになります。

実は、誕生日についても同じようなことが言えます。

クラスの中に誕生日が同じ人が他に一人でもいるという確率は、クラス的人数が30人で、約73%になります。ちなみに、40人だと90%、50人だと97%です。

一年は365日もあるから、誕生日が同じ人が少ないのではないかと思われそうですが、一人でも同じ人がいるという確率は大きいみたいです。

個々に誕生日を聞いてみると「あっ、僕と同じだ。」「私と一緒にだ。」等という子が出てくるはず。クラスみんなに聞いてみたらどうですか？

こう考えてみると起こりにくそうであって、確かめてみると実は起こりやすかったということが数学的な理論で確かめられることが多いものです。

そもそも確率論というのはギャンブルにおいてどちらが勝つか、勝ちやすいかという、ちょっと神聖な学問とはかけ離れているようなことから発生しているらしいのです。

さらにこの確率論というのは、他の数学に比べまだ歴史的に浅く、新しい分野であり、身近でおもしろいところでもあります。

私たちの身近な確率として”降水確率”なるものがあります。

降水確率30%というのは、こういう日が10日あったら、3日ぐらいは1mm以上の雨が降るといことなのです。

ちなみに降水量1mmというのは1㎡に1リットルの雨が降るということです。すなわち、1㎡に1リットルパックの牛乳をこぼしたことになるのです。だから、台風シーズンに1時間に1000mmの集中豪雨と聞くと、1㎡に1000リットルの水を、1時間にぶちまけたことになるからものすごい水の量です。しかもそれがそこら中にぶちまけられるのだから、ものすごい量です。

降水確率が50%ということは、実はすごく雨が降りやすいということなのです。ですから、30%の降水確率が出たら、傘を持つぐらいの気持ちでいるとよいですね。

もう一つ。こんな話を見つけました。どのように感じられますか？

幼い頃に父が亡くなり、母は再婚もせずに俺を育ててくれた。

学もなく、技術もなかった母は、個人商店の手伝いみたいな仕事で生計を立てていた。

それでも当時住んでいた土地は、まだ人情が残っていたので、何とか母子二人で質素に暮らしていった。

娯楽をする余裕なんてなく、日曜日は母の手作りの弁当を持って、近所の河原とかに遊びに行っていた。

母が給料をもらった次の日曜日には、クリームパンとコーラを買ってくれた。

ある日、母が勤め先からプロ野球のチケットを2枚もらってきた。俺は生まれて初めてのプロ野球観戦に興奮し、母はいつもより少しだけ豪華な弁当を作ってくれた。

野球場に着き、チケットを見せて入ろうとすると、係員に止められた。母がもらったのは招待券ではなく、優待券だった。

チケット売り場で一人 1000 円ずつ払ってチケットを買わなければいけないと言われ、帰りの電車賃くらいしか持っていなかった俺たちは、外のベンチで弁当を食べて帰った。電車の中で無言の母に「楽しかったよ」と言ったら、母は「母ちゃん、バカでごめんね」と言って涙を少しこぼした。

俺は、母につらい思いをさせた、貧乏と無学が、とことん嫌になって、一生懸命に勉強した。

新聞奨学生として大学まで進み、いっばしの社会人になった。結婚もして、母に孫を見せてやることもできた。

そんな母が去年の暮れに亡くなった。

死ぬ前に一度だけ目を覚まし、思い出したように「野球、ごめんね」と言った。

俺は「楽しかったよ」と言おうとしたが、最後まで声にならなかった。

この文を読んだとき、父と母は違えど、我が家も同じようでした。

子どもに苦労させたくないという親の思いは、いつの世も同じだと思います。

親がいなくなっても、自分の足で立って生きていけるように育てていくことが、親の大きな使命ではないでしょうか？

こういうことを経験したものでないと、本当の意味で、この意識は共有できませんが、経験してなくとも、この意識に近づくことはできます。

でも、早かれ遅かれ、親を亡くすという経験はいつか訪れるかもしれませんが、子どものときではなく、覚悟ができたずっと後がよかったなあ。

## 平成30年 6月 5日(火) 晴れ

朝から晴れていますが、西日本では雨模様とのこと。まもなく入梅かな。貴重な晴天を生かしたいな。でもどのように？

### 自然への畏敬

奈良の法隆寺五重塔は建立されてから1500年ほど経ちます。

これは世界最古の木造建築として有名です。

この木造建築の真ん中に、でんと立っている”大黒柱”は、まだこれから1500年はずっとつそうです。木は切られて、いのちはなくなったとはいえ、しかし、木は生きているというのです。今までは少しずつ縮み、これからはまた少しずつ伸びていき、元に戻り、やがて朽ちるのだそうです。

建て方も、木が生えていたような向きに、すなわち、南に向いていた方を南に向けて木を立てたのだそうです。日本の気候の中で、何百年、何千年と生きながらえてきた木を切り、さらに何千年と生かすという工法は先人の知恵なのでしょう。また、人間の寿命のスパンから考えると、自然は偉大です。自然の摂理に逆らうことなく、上手にそれを生かしてきた先人たちもまた偉大だと思います。

阪神淡路大震災は平成7（1995）年1月17日に起こりました。また東北大震災は平成23（2011）年3月11日に起こりました。

一瞬のうちに人間だけでなく、いろいろな尊い命を奪い、すべてのものを破壊し尽くしました。自然の前に、人間の無力さをあらためて印象づけました。自然はすごい力を持っています。人間などほんとにちっぽけな存在ですね。

地球の大気や大地を汚すことはできても、再生することはできません。かつて、広島に原子爆弾が投下されたとき、今後50年間は草木も生えない不毛の土地になったといわれましたが、すぐに草木は生え、木々は青々としたまばゆいばかりの緑を呈し、そして、広島は著しい発展を遂げています。

自然は素晴らしい。無限の力を持っています。自然に対して、人間は立ち向かって、結局、歯が立ちません。

私たちは自然から発生しました。人が生まれる前の、母親の胎内の中では、進化の過程をたどるのだそうです。人が羊水の中にいるということは、地球上で生まれた初めての生物は海の中で発生したということであり、水生動物を経て、陸に上がり、進化を遂げたものとも考えられています。

だから、”孫悟空”ではありませんが、自然という”お釈迦様”の手のひらの中で、”孫悟空”という私たち人間が遊んでいるのであって、人間は決して自然を自由に扱えるものではないことを認識しなければいけないと思います。

傲慢な心を捨て去り、自然の中で生かされていることをあらためて悟り、自然の恵に感謝したいものです。

## 平成30年 6月 4日(月) 晴れ

好天に恵まれ、朝からテンションはあがっています。

今週末から前期中間考査があります。1年生にとっては初めての定期考査。頑張ってね。

先週末、うれしいことがありました。卒業生に偶然会えたからです。

実家のある場所に、田植えの準備をしにいきました。(と言っても待ってくれている両親は他界していませんが。)

行くと、家の横の、自治会所有の土地がきれいにされていました。さらに、私の家の土地の一部分もきれいに笹竹が刈られていました。

細かいことというと、人の土地に勝手に入ってきて、勝手に笹竹を刈って行ってしまったという事です。暗い気持ちになりました。

「隣を刈るけど一緒に刈っていい？」と言えれば、「いいよ。よろしくお願いします。」と、きっと答えたであろうが、ときすでに遅し。刈られたものは元には戻りません。でも、刈ってもらってよかったとはいえ、この現実を誰に相談することもできません。だって、私はその住民ではないし、その自治会には私は入っていないのだから。

ひょっとして、私の土地を自治会の土地と勘違いしているのかもしれないのか、とか、いないから何をしてもかまわないと勝手に思っているのかとか、と思うと、どうしてよいかわからず、途方にくれていました。

そこへ、当の工事をしていた業者の人が近づいてきて、「自治会の人ですか？」と聞かれ、「いいえ、このうちのものですが」という会話。

この人に事情を話しても仕方がないけれど、「実は、・・・・・・で。」という話をしました。私は、特に波風を立てるわけではなく、一言言ってくれればよかったのに“ということだけを話しました。

そのとき、急に、私に向かって、「ひょっとして、先生ではないですか？」といわれ、私も、「君は見たことがあるけど、どこかで教えたかな？」と。

彼が名刺をくれて、数十年前にタイムスリップ。

思い出しました。「〇〇君やね？」と。

“こんなことあるのやな”と。

私は、本当は、昼から自宅を出て、実家に行く予定だったのだが、急遽、午前中に行くことにした。

彼は、工事現場が狭い現場だから、普段は現場に立ち会わないけれど、たまたま来たとのこと。

こんな偶然があるのですね。私が自宅を出るのが遅かったり、また、彼が来なかったら、会うことはなかった。

久しぶりに話しに盛り上がり、肝心の話は最後に忘れないうちにできましたが、うれしいサプライズに興奮しました。

## 平成30年 6月 1日(金) 晴れ

朝から晴れて気持ちよかったです、気温がぐんぐんと上がり暑くなりました。

今日は一日出張で学校にいませんでした。学校で聞く、生徒の元気な声が、あらためて、私の原動力なんだなあと思いました。

ある場所に行って眺めていたら、家康の遺訓というものが額に掲げてあった。

数十年前に学級通信に書いたことを思い出しました。懐かしくて、つい、書いてみました。

人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし。急ぐべからず。

不自由を常と思えば不足なし。

こころに望みおこらば困窮したる時を思い出すべし。

堪忍は無事長久の基、いかりは敵と思え。

勝つ事ばかり知りて、負くること知らざれば害その身にいたる。

おのれを責めて人をせむるな。

及ばざるは過ぎたるよりまされり。

この意味は、大体こういうものかなと思って下に書きます。間違っていたら言ってください。

人の一生というものは、重い荷を背負って、遠い道に行くようなものです。

急いではいけない。

不自由が当たり前だと思えば、不満は生じない。  
心に欲が起きたときには、苦しかった時を思い出すことだ。  
がまんすることが無事に長く安らかでいられる基礎であり、「怒り」は敵と思いなさい。  
勝つことばかり知って、負けを知らないことはその危害が自分に迫ってくる。  
自分の行動について反省し、他人を責めてはいけない。  
足りないほうが、し過ぎ、やり過ぎよりは優れている。

でも、これは徳川家康の言葉ではなく、水戸のご老公として有名な、徳川光圀公の遺訓『人のいましめ』が元となったといわれています。

苦は楽のたね 楽は苦のたねと知るべし。  
主人と親とは無理なるものと思ひ恩を忘るることなかれ。  
下人はたらわぬものと知るべし。  
子程に親を思い子なきものは身にくらべて近きを手本とすべし。  
掟に怖ぢよ 分別なきものに怖ぢよ。  
朝寝すべらかす 長座すべからず。  
小事もあなどらず 大事も驚くべからず。  
慾と色と酒はかたきと知るべし。  
九分は足らず十分はこぼるとするべし。  
分別は堪忍にありと知るべし。  
正直は一生の宝、堪忍は一生の相続、慈悲は一生の祈禱と知るべし。

似ているかな？

いずれにせよ、どちらも、生きていく上でのひとつの指針にはなります。  
今一度考えさせられました。

## 平成30年 5月31日(木) 雨

朝からどんよりと曇り、時々雨が降っています。

昨日の命を守る訓練。整然と静かにそしてスムーズに体育館に集まりました。すごいなあ。

でも、実際に、非常事態のとき、どこに集まるとか、どう行動するかは自分の判断です。家族のあいだでも、何かあったら、どこに集まるか、どう連絡するか、など、話しておくのもいいかもしれません。何かのきっかけにして欲しいです。

自分の命は自分で守り、そして、できればみんなが助かるといいですね。絶えず、危機管理意識を持ち、最悪を想定し、シミュレーションする癖をつけておいて欲しいです。

私も、かつて、ある事件に遭遇しました。私の方にはまったく非がありませんでしたが、事件は、突然降ってきました。

あれよ、あれよと言う間に、全国ニュースになってしまいました。

でも、対応はしなければなりませんし、加害者の会社はすべての質問をシャットアウト。

学校の方に問い合わせばかりが来ました。

そのとき、危機管理の「さしすせそ」が、とにかく、頭の中をぐるぐると回っていました。

(さ) 最悪を想定し、(し) 慎重で、かつ(す) すばやく判断し、行動を起こし、(せ) 誠意を持って対応し、または精一杯事実と向き合い、そして、(そ) 組織で一丸となって対応しました。

今となっては過去の話ですが、思い出すたびに、事件は現場で起こるんだと言うことをしみじみと感じています。

話は変わりますが、こんな話を最近聞きました。

この地域ではありませんが、ある小学校の低学年の児童に、他の児童が「臭い」と言うので、「そんなこと言うもんじゃありません。」と言いつつも、先生自らその児童のもとへ行くと、ほんとうに“臭い”状況でした。

その子に事情を聴くと、一週間、風呂に入っていないということだそうでした。

もし、お金がなく、水道もガスも電気も止められて、何の手立てもないからもしれませんが、そうではなく、これがいつものことだそうです。

いわゆる親の“ネグレクト”なんです。それがこの小学校には一人だけではないのだそうです。

やがて、中学、高校と学齢を重ねます。でも、“臭い”と言われた子供が、学校が嫌になって、やがて学校へ行かなくなる。そして、ひきこもりになっていかなければいいなと思います。また、そのように育てられた子供たちが大きくなり、その生活が当たり前だということになりかねません。

負のスパイラルが始まっています。

生活困窮の連鎖です。

子どもを産みっぱなしですか？

少子化の折、子どもをうめる世代の人には産んでいただき、歯止めをかけていただきたいのはやまやまなんです、産んだからにはしっかりと育ててもらいたいと切に願います。

子を産めば、人は物理的に親になれるですが、本当の“親”には努力しなければなれないと思います。失敗しながらも、子どものために精一杯頑張ることで、子どもが育てながら、親は、真の“親”にならせてもらっているのではないのでしょうか？

子どもを育てながら、親は、真の“親”にさせていただいているといっても過言ではありません。

立派な大人、社会人となれるように、日々、研鑽したいものです。

## 平成30年 5月30日(水) 雨

朝から雨です。今日は命を守る訓練があります。いろいろなお膳立てはせず、ありのままに訓練をし、その結果を一人ひとりが受け止め、どのようにしたら安全に避難できるかを考えたい。訓練のための訓練ではなく、もし、その事態になったらどう行動するかを常に意識させておくべきだと思います。まさしく、命は自分で守るという意識を持ってもら

いたい。常に危機管理意識を持っていて欲しい。

話は変わりますが、子どもたちにとって難しい話だと思われたり、理解できないようなことは、子どもたちがわからないだろうから聞かせないのではなく、子どもたちにとっては難しいのではないかと思われそうなことも、聞いてもらい、考えてもらわなければならないと思います。こちらがこうだと決め付けてはいけないのではないのでしょうか。

子どもたちにきっかけを与えて、それをどう受け止めるかは一人ひとり違います。

たとえば、戦争に関する話。自分の身に降りかかるとしたら、どう対処すればよいのか、数十年前に起こった戦争が、ひょっとしたら、いつ起こるかもわからないという現在の状況の中で、戦争をすることは愚かなことであり、皆が不幸になるということを理解してほしいです。だから、何かを感じ、そして戦争に断固反対し、そして何よりも命を守ることを常に考えていて欲しいと願っています。

大事なことは、子どもたちが、話を聞くか聞かないかよりも、私たちが大人として、聞かせなければならないということです。

子どもたちの現状を見て、きっと、「聞くわけないから」とか、「聞かせたって聞くわけないかもしれない」という先入観ではなく、どんなことも聞かせたり、経験させたりして、機会を与えてあげなければいけないということです。

聞かないと思っていた子どもたちが、実はしっかりと考えているのです。子どもたちを過小評価しないでほしい。私たちの勝手な思い込みや、先入観を捨て、真に聞かせたいとか、聞くべきだとか、やらせるべきだとかを考えたものに対しては、まず、聞かせましょう、やらせましょう。それが先人である私たちの責務だと思います。

ところで、学習について、「自分の子どもが、やる気が出るまで待つ。だから、今は静観している。」という言葉は、先日、久々に聞いた。この言葉は以前からよく聞く。

子どもも含めて、人は楽をしたいもの、遊びたいもの。

小さい時は、親がある程度お膳立てをしてやらない限り、または、本人が、余程意図しない限り、楽な方に流れて、遊び呆け、当然、学習はしないだろう。

小さい頃の学習習慣は、親が作ってやらなければいけない。

子どもがそうなるように仕向けてやらなければいけない。

子どもは、勝手に育つわけではない。

小さい子供のやる気が出るまで待っていたら、そのうち、年を取ってしまう。

年をとってしまって、あわてても、もう、時、すでに遅し。

“本人にやる気が出ない限り、何をやってもうまくいくわけではない。”

確かに理屈はそうだ。本人がやる気にならない限り、成果は当然出ないだろう。

でも、どんなことでも、やらせてみることで、興味がわき、やる気になるかもしれない。やる気にならなかつたら、やめて、別の方法を考えればよい。

まずやらせてみたらいいじゃないか。

失敗して気付くこともあるし、失敗したら、どう起き上がればよいかも自分で考えなくてはならない。

親はいつまでも見守ってられるわけではない。親は通常先に逝くもの。



子どもが、自分の足で立ち、自分で歩いていかねばならない。  
自分で考え、判断し、行動し、自分で責任を持つ。これが大人の基本だと思う。

## 平成30年 5月29日(火) 曇りのち晴れ

朝から蒸し暑い。雨が近づいているのかな？入梅間近？

高等教育の無償化って、今の緊急の課題かな？

税金は広く浅く多くの人に分配されるべきだと思う。だから、多くの人が恩恵を受けるように使って欲しいと思う。

高校のとき、模試を受けた。

ある大学のオープン模試。

ある同級生が私に向かって言った。

「お金のないやつは大学に行かずに働けばいいんだ。」

「塾にも予備校にも行かないで、俺と同じ大学を受けようとするのは生意気だ。100年早いわ。」とまで言われた。

「遠くの大学に行ってもいいだろうか。」と父親に話したら、答えてくれなかったが、家計が逼迫していて、それどころではない状況は目に見えていて、私は、親に頼らず、自分の力で行ける大学に行こうと、いろいろと探した。

結局、家から通えるところを受け、そこがたまたま受かったので大学に行けたけど、もし、受かっていなかったらどうなっていたかな？

生まれたところが貧乏人だったら大学には行けない。確かにそうかも。でも、大学に行かなければ人生が終わりではない。確かに貧困のスパイラルを打ち切らねばならないが、打ち切る方法は大学に行かなくたって、貧困のスパイラルを打ち切れる方法はあるはずだと思う。

無理してまで行くべきものかな？と、最近思う。大学へ行かなければ取れない資格もある。

授業料を、大学に何百万円と払う価値はあるのかな、そこまでして高等教育を受けさせなければならないものかなって、疑いたくなる大学、学部ってありませんか？

今一度、本当に行くべきものなのかを問うてみるべきだ。

結論として、払うべき価値のあるということなら、行けばいい。払ってでも行けばいい。よく考えて判断しよう。

## 平成30年 5月28日(月) 曇りのち晴れ

なんだか蒸し暑い。

いよいよ梅雨かな？ ねちっこく暑苦しい梅雨。

子どもには、「お父さんと同じやな。」と言われそう。気をつけようっと。

先週末で球技大会は終わった。

切り替えを上手にしよう。引きずらないで、「パッパッ！」と切り替えのうまい人は、いろいろなことをうまく乗り切れるような気がします。

次は定期テスト、かな？

話は変わりますが…。

金曜日、本校で、いじめに関する委員会を行いました。

本校では、いじめはないと信じていますが、目に見えてないだけで、潜んでいるかもしれません。いじめは、いつでも、どこでも、起こりうるものとして考えていかなければならないと思っています。いつ、何時、その事態に遭遇してもいいように、常に子どもたちを見て、準備だけはしていなければなりませんね。危機管理意識を常に持っていたいです。

いじめは、いじめを受けた側はよく覚えています。

私自身も小学生のとき、いじめに遭いました。いまだにそのことは心に残っていて、思い出したくもありません。

以前の学校で、いじめたやつが、私を訪ねてきました。私はフラッシュバックしました。当然、いじめた側の彼は、そういうことなどまったく覚えていないような素振りでした。でも、私は鮮明に覚えています。

話の中で、いろいろと私に頼んでいきました。

でも、私は、・・・。

された側はずっと覚えています。どの面下げて頼みに来たのかと思ってしまった。(一応、大人の対応はしましたが)

だから、私もひょっとすると何気ない言葉やしぐさで人を気づけているのかもしれないし、いじめととられていることがあるかもしれないと思うと怖いです。日頃の言動や態度に気をつけて、どんな人にも、真摯で、丁寧に対応しなければいけないと自分に言い聞かせました。

松谷みよ子 作 「私のいもうと」という話を知っていますか？

私が当時在勤していた、岐阜県総合教育センター長より紹介されたもので、よく、研修の題材にさせていただきました。全文は載せませんので本を買って読んでみてください。

わたしのいもうと

松谷みよ子

この子はわたしのいもうと

むこうをむいたままふりむいてくれないのです

いもうとのはなしきいてください

いまから七年まえわたしたちはこの町にひっこしてきました

トラックにのせてもらってふざけたりはしゃいだり

アイスクャンディをなめたりしながら

いもうとは小学校四年生でした

(中略) この間にいじめが . . . .

ある日いもうとはひっそりと死にました  
つるをてのひらにすくって花といっしょにいれました  
いもうとのはなしはこれだけです  
わたしをいじめたひとたちは  
もうわたしをわすれてしまったでしょうね  
あそびたかったのに  
べんきょうしたかったのに

「あとがき—松谷みよ子

数年前、一通の手紙がきた。わたしのいもうとのはなしを聞いてください、という手紙であった。いじめにあい、登校を拒否し、心を閉ざしてしまった子。最後の『わたしをいじめたひとたちは、もうわたしをわすれてしまったことでしょうね』という言葉まできたとき、わたしはこみあげてくるものをとどめることができなかった。ある時期、わたしもいじめにあっている。その辛さは、地獄のそこをほうようであった。幼い日の記憶に、あれはたしかイソップだったと思うのだが、池のカエルが子供に叫ぶのである。「おねがいでから石を投げないで。あなたたちには遊びでも、わたしには命のもんだいだから。」わたしもさけびたかった。手紙はさらにつづく。自分より弱いものをいじめる。自分とおなじでないものを許さない。そうした差別こそが戦争へとつながるのではないのでしょうか。そうですとも、そうなのよとわたしは、手を握りたい心持ちであった。おなじ日本人のなかでの差別は、他民族への差別とかさなり、人間の尊厳をふみにじっていく。アウシュビッツも、太平洋戦争でのわたしたちが犯した残ぎやく行為も、ここにつながる。そしておそろしいのは、おおかたの人が自分でも知らないうちに、加害者になっている、またはなり得ることではなからうか。 . . . (あとがき続く)」

いじている側は忘れてしまっても、いじめられている側はいつまでも覚えています。される側の立場でいつも考えられる人になりたい。絶えず他者の立場に身をおける人が素晴らしいと思います。

自分で考え、自分で行動し、最後は人のせいにしないで、自分でしっかりと責任がとれる大人になりたいと願う。

ただ、この世に生れて、この世に生きていることだけでも、とてもうれしいことだと、皆が少しでも思えたらいいなあ。

「どうして私は生まれてきたのだろう？ 何のために生まれてきたのだろう？」などの答えは簡単です。

「生まれてきてくれてありがとう。その存在だけで十分です。」

この世に生まれてきてくれたことだけで有難いことです。  
何の理由もありません。どんな命も尊いものです。この世に生まれて来られたことに感謝したいものです。

## 平成30年 5月25日(金) 晴れ

今日は待ちに待った球技大会。  
朝から暑い。差すような紫外線。熱中症にならないようにしたいね。

理科は面白い。

現象がある。

なぜそうなるのかを突き止め、そしてその後きっとこうなるだろうと予測でき、その予測どおりに現象が再現できると、達成感が沸く。

自分で予想を立て、その実証し、結論に導く。

でも、必ずしもうまくいくわけがない。むしろ、うまく行かないことのほうが多い。

私の失敗談のひとつ。

大学院のとき、私の研究に科学研究費が付いた。

「よし！」と、意気込んで研究を開始。

こうなってほしいという仮説を立て、シミュレーションするために、当時は今よりも性能ははるかに低い、大きさは立派なコンピュータで、2次元用のプログラムを組み、実験と平行して、仮説理論を検証するための実験をした。

ところが、思い通りの実験結果にならない。

なぜだろう。

実験に問題はないのか？仮説がよくないのか？

悩んだ。

結論は簡単だった。検出器の感度が悪かったのだ。実験データの数値が、検出機器の雑音に埋もれ、誤差が大きくて、結局、思い通りの結論に至らず、失敗に終わった。

でも、これは検出器の精度が上がれば、仮説が正しいか否かは、いずれはわかることであつた。

私が卒業後、何人かの後輩がその実験を引き継いでくれた。

でも、それより別の方法、別の理論の方が簡便で、正確にデータが測れることがわかり、私のその方法は、露と消えてしまった。今思うと、無駄であつたが、やってみなければ、それはわからなかつた。

ときどき、何かをしようとする、ためらう自分がある。どうしようと、ああだ、こうだと悩む。悩むより踏み出せばいいのにと、というもう一人の自分がある。

せめぎ合いだ。

悩んだら、まず、やってみよう。結果はどうなるかはわからないが、何もしないで手をこまねいていても、現状は何も変わらない。

何でも、まず、挑戦してみよう。失敗が怖くて躊躇せず、踏み込んでみよう。動きながら考えて、修正して、また動く、そして、また考える。

ひょっとすると自分が思ってもいない方向に進んでいくかもしれないが、また、それも面白い。

「日々変化する毎日を楽しもうじゃないか。」と、自分に鼓舞しました。

## 平成30年 5月24日(木) 晴れ

朝から暑い。昨日とはまったく違う。体温調節がうまくいなくて、風邪気味のものいませんか？

ふと思ったことです。

子どもは親を選んで生まれてきたわけではありません。

親も子どもを選んだわけではありません。

お互いのこの偶然が、この世で親子として存在しているのですね。

自分に問いかけました。

親として、子どもたちの手本となり、見本となる親となっているのだろうか、と。

子どもたちの前で、親であるということを誇示せざるを得ず、その行動や言動がパフォーマンスのみに終わっていないだろうか？

きっと、子どもたちはそこをしっかりと見ていると思います。

私たち親の行動、言動が、本当に自分達のためにしてくれていることなのか、そうでないのかを。

子どもたちのことを思って、私たち親はいろいろとやっているのに、肝心の子どもたちがちっとも分かってくれないなと思うとき、それは、きっと私たち親の独りよがりのせいなのかも知れません。

絶えず、このことは誰のためにしていることなのか、されている子どもたちは本当に喜んでいてくれるのか、などを常に意識していきたいものです。

反省、反省。

## 平成30年 5月23日(水) 曇りのち雨

朝から曇り、雨が降ってきました。最近の天気予報はよく当たります。

## 平成30年 5月22日(火) 晴れ

気持ちのいい朝です。

明日は球技大会なのですが、朝から雨模様。準備の関係もあるので、あさっての25日(金)に延期しました。

本日は、県内の国語の初任者15名の方が来校され、本校の国語の先生の示範授業を受けました。すばらしい授業で、「こんな授業を私も高校のときに受けたかったなあ。」と思いました。

初々しい先生方を目の前に、自分の初任の頃を思い出しました。

でも、今の先生方のように、紳士的でスマートではなく、生意気だったあの頃の私。

先輩の先生方の、大きくて寛い心に、どんなにか救われてたことでしょう。

そのときは、そんなことなど微塵も思わず、勝手気ままに振舞っていた自分が、今となっては恥ずかしさでいっぱいです。

先生方には教員のすばらしさ、生きているからこそいろいろなことに出会えること、毎日サプライズな事が起きても、生きているからこそ味わえるのだと言うこと、そして、夢を大いに語って欲しいです。これからの子どもたちの人生に、先生方がちょっとした味付けになって、先生方と出会えた喜びを感じてもらえるような先生になってください。先生方の教員生活に幸多からんことを願います。

4時間目、早めに授業に行ったとき、ある生徒から、「うちのお母さん、先生に習ったって言ってたよ。」と、ニコニコ顔で言ってきました。

その笑顔はどういう意味だったのだろうと疑心暗鬼になりながらも、穴があったら入りたいと顔を赤らめてしまいました。

家に帰ったら、彼女は母親にどんな風に報告しているのだろう。

「全然わからない授業やわ。」とか、「あんな眠たい授業、だめやわ。」なんて言われてないかな。何か怖いなあ。

もし、保護者の方で、私が教えたことがあるということに気づいた方は、もっと早く言ってきてください。恥ずかしい過去は消せませんが、小出しにされると、ボディブローのようにじわりじわりと影響が来ます。私の心はチキンハートです。

## 平成30年 5月21日(月) 曇りのち晴れ

朝から晴れだと思ったら、曇っていました。土曜日あたりから空気が入れ替わったのかさわやかです。いや、夜はむしろと寒いと感じませんか？

体温調節がうまくいかないと風を引くので気をつけましょう。

さて、一般的な話ですが、多くの人を見ていると、面倒な手続きって、避けることが多いのではないかと思います。

でも、今までの私の経験ですが、意外と、踏み込んで、面倒だけれど手続きをしてみると、恩恵にあずかる場合が多いことがありました。

面倒だから諦める人が多いと言うのも、実は、わざとそうしている向きもあるかと思われるものがあるのではないかと疑ってしまいます。穿った見方かもしれませんが、手続きされる側も、件数を減らしたいと言う思惑もあるのではないかと。

ところで、「ピンチはチャンス」と言う言葉を聞いたことがありますか？

人はピンチに陥ったとき、その人の本性が現れます。

どんなに平静を装い、取り繕っていたとしても、ピンチになったときには慌てふためき、そのピンチを予想だにしていなければ、絶対にうろたえるでしょう。

そういうときこそ、そのピンチに鍛えてもらえるのです。

そのピンチをどう打開し、乗り切るか。

そのためには、その人の真価が発揮できるように、常に危機意識を持ち、いろいろなシミュレーションをしておくといいでしょう。

また、人はいろいろな場面で常に選択する岐路に立たされています。

右か左か、その次も右か左か。

フローチャートを描いていくと、いろいろな場面で選択を迫られているのです。

最適な選択はなかなかありません。「どちらかと言うと、こちらの方かな」と言う、ベタな選択を選ぶ場合が多いかな？

そのときの基準となるのは、その人の過去の経験であり、その人の失敗体験、成功体験ではないでしょうか？

だから、いろいろな場面で、自らが選択する機会を多く持ちましょう。

その経験が、「生きていく力」になると思います。

いろいろなことに積極的に関わりましょう。

あえてピンチを作り、自分に負荷をかけて、自らの力を試すのもいいかもしれませんね。

## 平成30年 5月18日(金) 曇りのち雨

今日は朝から、どんよりと曇っています。蒸し暑い。もうすぐ梅雨の季節かなと思われる感じです。来週の23日(水)の球技大会は雨のようだが、どのくらいの雨かな？状況によってはできるといいが…。

言葉は、自分の意図が相手に伝わってこそ、コミュニケーションツールとして機能するものだと思う。言葉と言って、言葉は魂を持っていると思う。言葉は発せられたら、一人歩きするものではないでしょうか。だから、言葉は慎重に発せられるべきものですね。

以前、その子のためだとおもい、その子に向かって一生懸命、熱く話していたら、自分の真意が伝わらず、拳句の果てに、「お前は、やめろと言いたいのか」と逆切れされた。

そんなこと一言も言っていないけど、相手にそう思わせたことは事実であり、そう取らせるように話していないのに、相手がそう思ったことは私の責任です。

その子にすぐに誤り、自分の真意をストレートに話した。

彼は理解してくれて、私自身もほっとしたことを思い出しました。

どれだけ自分が一生懸命話しても、自分の意図が伝わらなければ、それは自己満足の世界です。

難しい言葉を並べて、煙に巻き、権威を振りかざす、どこかの偉い人たちは最低です。

本当に賢い人は、難しいことを、どの人も理解できるような簡単な言葉にし、説明できる人だと、私は思う。

だからこそ、自分の真意を伝えるには、短くて、そして簡単に、誰にでも理解できるように話すことが大切だと思っています。

だらだらと中身の無い話しをするのは、聞く側にとって、迷惑の何者でもないと思います。その時間を返せと言われても仕方がないとも思います。

自己満足に終わらないように、そして、話を聞いてくれた人たちが、何かひとつでも、

聴いてよかったなと思ってもらえたらいいなと思います。

今までの自分を振り返り、自分に言い聞かせました。気をつけなきゃいけないぞって。お前の話は大丈夫かと・・・。

## 平成30年 5月17日(木) 晴れのち曇り

今日は1年生の自転車運転講習会が中濃自動車学校を会場に行われました。技能、学科とも全員合格でした。交通事故の加害者にも被害者にもならないように、今後も気をつけてもらいたいです。

また、2年生対象の進路説明会が午後ありました。3年生と同様、平日の午後にもかかわらず、多数の保護者の方(生徒数の8割)がお見えになりました。ありがとうございました。

昨日、嬉しいことを聞いた。

これを読んでくれている人、いますよと教えてもらえた。

そういえば、カウント数が一日経つと予想より増えている。他のページを見てくれると思うけど、ぜひ、ここも読んでもらえるような書きぶりにしなきゃと思いました。もし、こんな感想を持ったよとか、こんなこと書いてみたらどうですか、などのアドバイスもください。

「やればできる」というけれど、やらなければ、できないのです。

やればできるのにといわれるということは、よく考えると、やっていないのではないのかな？

やれるかどうかは、やってみないとわからないものです。

まずは走り出しましょう。

本来なら、「細心の注意を払って綿密に計画を立て、行動派大胆に」かもしれませんが、失敗を怖れていては何もできません。

失敗したっていいじゃないですか。失敗したらそこで考えましょう。

臆病にならず、慎重すぎず、大胆に行動をしましょう。

なるようになるさ。何とかなるんじゃないの？

## 平成30年 5月16日(水) 晴れ

少しずつ暑くなりつつあります。

朝から球技大会に向けて練習している生徒達が外にいます。

外にいと紫外線が突き刺さりそうです。若いうちは黒く焼けているのが若者らしくもありそうに見えますが、それがしみとなり、年をとるとそばかすのように…。紫外線はやはり有害放射線。役に立つこともありますが、生命にとっては有害な部分が多いものです。やはり若いうちから紫外線対策をしなきゃ。



## 平成30年 5月15日(火) 晴れ

今日は3年生の進路説明会があります。例年、平日にもかかわらず、多くの保護者の方(3年生の約8割)に来ていただき、感謝にたえません。

いよいよ出口の入試を踏まえて、保護者の方、受験生である3年生諸君への説明と、メールを送る会です。

「先んずれば制す」、「準備万端、難を怖れず」

## 平成30年 5月14日(月) 晴れ

さわやかな晴天。外の日差しは強く、紫外線が突き刺さる感がある。校舎内はまだひんやりすることもある。すごしやすいですが、もうすぐ暑い夏がやってくる。

「いいかげん」より「いい、加減」。「恕」の精神で。

人は失敗をします。私も、自分で、よく、「いいかげんだなあ」と思うことがある。

「いいかげん」より、「いい、加減」でありたい。

多少、ミスってもいいじゃない。お互い、気を張らず、ミスしても許そう。

「恕」の精神で。気楽にやろうよ。

「完璧」って何なの？

上を見ればきりが無い。際限がない自縛にとられるな。

適度に、適当に。

## 平成30年 5月11日(金) 晴れ

さわやかな晴天。気持ちいい。

連休も明けて、もう1週間が経ちます。連休前のペースに戻ったでしょうか？

今日は、第1回命を守る訓練。

ふと、テストで思った。間違っていたら、ご容赦を。

テストを受ければ、結果は点数で返ってくる。どうしても点数だけが一人歩きを。他人との比較もその点数だ。

どこができていて、どこができていないかは、皆違うのに。その合計点数のみで順位付けされ、判断される。

本来、テストは、今、どこができていなくて、どこができているのか、どこがわかっていて、どこがわかっていないのかを確かめるためのものでありたいし、自分の弱点やわかっていないところを克服していく材料でありたいと思う。

しかし、模擬テストや入学試験となると、すべての生徒を順位付けして判断せねばならないから、そんなこと言っではいられないのだろう。これは仕方がないことなのかもしれ

ない。

テストで、たまたまできてしまったところは、ラッキーだったと言うだけで、あまり振り返らないことが多いのではないか。ビギナーズラックなのに、そのままおざりにしてしまう。

そこが盲点だ。そういうところがその人にとって弱点なのに、おろそかにしてしまう。さらに、よくあることだが、そこが本番に出て、しくじる場合が往々にある。

テストは、テストをやった後が肝心だと思う。振り返りが大切だ。テストをやった直後の記憶の鮮明なうちに、もう一度確認をすると、必ずその知識は記憶に定着すると思う。

点数という結果にこだわりを持つのも必要だが、できていないこと、できていること、わかっていないこと、わかっていることをしっかりと区別でき、把握していること、つまり、自分の現状をしっかりと把握し、今後どうして行くかを考えることこそ重要だと、私は思う。

## 平成30年 5月10日(木) 晴れ

さわやかな晴天。気持ちよく、朝、校舎内を回りました。朝早く登校して勉強をしているものが多く、また、廊下掃除をしている生徒もいて、頭が下がりました。

「努力しても報われないかもしれないが、努力しなければ絶対に報われない」

という言葉を目にしたことがある。

私はできるほうではない。能力もさほどない。ただ、ひたすらコツコツと取り組むことはできそう。続けることはやがては、それが能力となるのかな。続けられることこそが能力なのかもしれないと自分で自分を褒める。

できるかできないかと考える前に、まず、やってみよう。

踏み出してみよう。結果がどう出るかはそのときの運もある。

でも、なぜそうなったかを必ず分析しよう。

自分にとって、よい結果でも悪い結果でも、結果が出るということには変わりがなく、何かをしたと言う証だ。

現状維持は後退であると思う。

挑戦することで新たな展開が生まれる。結果が出たらそこで考えればよいではないか。まず、踏み出してみよう。

と、自分を鼓舞してみた。

## 平成30年 5月 9日(水) 雨のち晴れ

雨が少し残った朝。すぐに天気も回復し、晴れてきました。

3年生のクラス写真を撮っていました。卒業アルバムの写真かな？

18歳という年は二度と帰ってこない。もっと言うと、今日という日、今と言う“時”は二度と戻らない。若いときは、早く大人になりたいと、背伸びをします。事ある毎に、「子どものくせに」とか、「近頃の若い者ときたら…」などと言われ、腹が立つ時期もある。

るだろう。でも、その若者も、やがては大人になる。

伝統って何？

先日、相撲の土俵上で市長が倒れ、女性が土俵に上がって助けようとしたところ、「女性は土俵から出てください。」と言うアナウンスがあり、物議を醸した事があった。

伝統っていったい何だろう。

時代とともにいろいろなものは変わって行く。それほどまでに縛られなければならない伝統って、本当に意味があるの？

よく、「その伝統を守らなかったから崇られたのだ。」とか、「悪いことがおきたのはそのせいだ。」などと言うものがある。ややもすると、魔女狩りのようなことにもなりかねない。

伝統に縛られることで、時代の流れに取り残され、消えていった物もあるはずだ。

変化に柔軟に対応する力がなければ、生き延びては行けない。

生物の“種”もそうだ。

その時代、そのときの環境、いろいろなこと、ものにうまく対応できたものだけが、生き延びている。伝統にこだわり縛られてはいけけない。むしろ打ち破らなければならない。

こだわるな、とらわれるな。

「何百年と続いている伝統には、それなりの理由がある」と言う人がいる。

いや、それは、ただ、やめるにやめられないだけのことじゃないのかと思う。

やめたら、その後で何を言われるかわからないから。

こんなことを思い出した。

小さい頃住んでいた実家の寄り合いで、念仏講なるものがあった。

父は若くして妻を亡くしたので、頻繁にある当番が回ってきたときには、準備から後片付けまで、仕事から帰ってきてから、一人で何もかもしなければならず、大変だと嘆いていた。

他の家では夫婦が揃っていて、皆、専業主婦だったので、準備は妻が行い、夫は会に出るだけ。

そこで、父は思い切って、その念仏講を辞めることを提案した。

当然、皆は大反対。でも、父はその会を抜けた。

すると、会自体がなくなってしまった。一人抜けただけなのでやめなくていいものを。実はきっと、皆もやめたがっていたのだろう。何となく予想がついた。

しかし、近所によくないことが立て続けに起きた。これは、「やめた祟り」だと言われた。

父が非難された。その後も、父は亡くなって随分経つのに、未だに言われることがある。父が言い出したことで長年続いていたものがなくなって崇られたのだと相変わらず言う。皆はやめたいと思っても言い出しづらく、父が言い出したことが渡りに船になり、父のせいにできているのだと思う。

臨機応変に立ち振る舞いができる人になりたい。いろいろなしがらみ、縛りにこだわることなく、また、とらわれることなく、気楽に生きて行きたい。子どもたちにも、いろいろなしがらみにとらわれることなく、生きて行って欲しいと願っている。

伝統のものってなくなったってしかたがないと思う。それが時代の流れならば。

今ある職業だって、何年か先にはもうなくなっているかもわからない時代だ。  
時代を読み、流れを読み、こだわることなく、またとられることなく、臨機応変に生きていかなければ、逆に伝統は消えていくのではないか。  
いろいろなものは、少しずつ変化しながらも永らえていけばよいのではないかと思う。

## 平成30年 5月 8日(火) 晴れのち曇りのち雨

昨夜、降り続いた雨も、朝は止んで、水はけのよい本校のグラウンドは、ところどころ、ぬかるみはあるものの、本日の体力測定には使用可能です。すごいグラウンドだ。

生徒は登校してから、すぐに自分の持ち場で準備をしていました。言われなくても考えて段取りできる“段取り力”。すばらしい。これこそ、“生きていく力”だ。

午前中、天候がこの状態で何とかやり終えた。

午後から雨がまた降ってきた。セーフ。

## 平成30年 5月 7日(月) 雨

朝から雨です。一日続くようだ。

3日から6日までの4連休は、いろいろなところで、試合、大会、コンクール、演奏会など、ありました。

今日は連休明けのテストもありました。

明日の午前中は、体力テスト・身体測定があります。

## 平成30年 5月 2日(水) 曇りのち雨

今日は5時限まで授業。5時限目は、公開授業で授業参観OK。

天気が悪くなっています。午後から雨。駐車場はグラウンドを予定。今にも降り出しそうな、空が泣き出しそうな、そして、これから雨が降るぞつと言う、なんともいえない風。

授業参観の後、PTA 総会があります。その後は学級懇談会です、予定がギュッと詰まっています。

大雨の予報です。被害がないことを祈ります。

明日から4連休。でも、各地で各競技、試合、大会。コンクールなど目白押し。

有意義？な休みであるといいですね。

## 平成30年 5月 1日(火) 晴れ

ゴールデンウィークの前半も終わり、今日、明日を終えれば後半の4連休になります。あすは、PTA 総会があります。夕方には雨。3日も雨。後半は寒暖の差も激しいとの予想。

今日から五月。あっという間の4月でした。生活に慣れたかな？

来年の今日は、新しい元号になっています。何になるのか楽しみですが、昭和生まれの私にとっては、年齢や年数の計算が平成をはさむので面倒です。それだけでなくとも記憶力や

能力が減退していくのに……。は西暦のほうがし易くなりますね。

## 平成30年 4月27日(金) 晴れ

暑くも寒くもなく、春らしい一日。もうすぐ目の前に夏が来てる。

ところで、昨日の疲れを感じさせない元気な生徒。昨日の強歩大会の後、部活動で思いっきり走っていた生徒。

若いってすばらしいな。若さはもう戻ってこない。時間は巻き戻せないですね。

今日は金曜日。いよいよ、明日からゴールデンウィークに入ります。

でも、提出課題はあり、テストがある。また、部活動の大会もありと、高校生の休む暇はありませんね。私もうかうかとしてはられない。

自分のペースで時間調整をし、自分のペースで生活をしましょう。

時間に振り回されるな。諸用事に振り回されるな。自分が主体となるような時間の使い方しよう。

自分が自分の人生の主役だ。

すべてに正直に生きなくてもよい。

大人になるためには、人を傷つけてはいけませんが、時には自分を取り繕うことも必要だ。

人との付き合い方は難しい。でも、自分を苦しめてはいけない。

上手なコミュニケーションのとり方も学んで欲しい。

## 平成30年 4月26日(木) 晴れ

絶好の強歩大会日和。

朝から快晴。昨日の雨がうそのようです。

24kmの長丁場。怪我も泣く安全に行事が終わりました。一安心。

さわやかな風が吹き、でも、紫外線はつよかったが、若い生徒たちの顔は生き生きとしていました。私も若者に混じって24kmを完歩できました。

途中で挨拶を交わしたり、また、いろいろな話をさせてもらいました。私にとっては、とても有意義なひと時でした。気を遣って話をしてくれてありがとう。

明日は筋肉痛かな？

でも、それは若い人の話。

私は、いつ出るのだろう？

ひょっとしたら私の筋肉は忘れていないかもしれないな。

## 平成30年 4月25日(水) 雨のち晴れ

朝から大雨警報が出ていた。

8時10分過ぎに解除。通常は2時間後からのスタートだが、きりのよいところで、11時半の4時限目から始めるメールを出した。

しかし、長良川鉄道は美濃以北で止まっていた。

すぐに全線開通したが、美濃以北の生徒は 12 時 55 分の 5 時限目からのスタートとした。  
でも、非常変災時なので、出欠については便宜を図るつもりでいます。

午後からは好天に恵まれました。

あすは、第 68 回強歩大会が開催されます。

天気がよすぎて、熱中症や過度な日焼けにならないことを願います。

## 平成 30 年 4 月 24 日(火) 雨

朝からぱらついていた雨もすぐに本降りになりました。

午前中に関市に危機管理課の方と消防団の副団長の方がお見えになりました。

傘 10 本と、合羽 10 セット、合羽をかけるラックをいただきました。将来の消防団員の高校生への寄贈だということです。

まさかの雨のときに、本校の他の“愛の傘”とともに使わせていただきます。ありがとうございました。

また、明日の予定では強歩大会ですが、この空模様です。このまま、ひよっとすると大雨になるかもしれません。次の日の予備日である木曜日は、必ず天候がよいと言う予報が出ているので、生徒の安全を最優先して、あさって 26 日に延期する決断をしました。

すぐメールでも配信し、7 時間目の説明会でも連絡しましたので、生徒の皆さん、あすは、授業ですよ。準備をよろしく。

明日の朝、大雨警報等、警報が出てる場合には、生徒手帳に書いてある手順に従って行動してください。

とにかく自分の命は自分で守りましょう。

## 平成 30 年 4 月 23 日(月) 晴れ

今日は、サン・ジョルディの日。

知ってましたか？

この日は「本の日」とも呼ばれ、スペインのカタルーニャ地方では、親しい人に本を贈る記念日とされています。この風習は 20 世紀後半に「サン・ジョルディの日」の名とともに日本へも紹介され、ユネスコでは、スペインからの提案に基づき、4 月 23 日を「世界図書・著作権デー」いわゆる、“世界本の日”に制定しています。

日本では 4 月 23 日が「子ども読書の日」と定められています。

ちょっと、手軽に読書でもいかがでしょうか？

本校では、朝読書をしています。

生徒が落ち着いて一日に始まりを迎えています。

## 平成 30 年 4 月 20 日(金) 晴れ

金曜日。

大体の人が 1 週間の疲れを感じるのか、気持ちに余裕がなく、ぼんやりとしている人も

多く見受けられる。そんなことない！と言われるかもしれないが、少しずつ蓄積してるものですよ。疲れと言うものは。この土日でリフレッシュできるといいけれど、予定が詰まっている人も多いですね。時間に振り回されないようにしたいものです。

## 平成30年 4月19日(木) 晴れ

1日天気もよく、お客さんの多い日でした。

## 平成30年 4月18日(水) 雨のち晴れ

朝から雨です。でも、午後には晴れるという天気予報。実際に晴れた。最近の天気予報はすごくよく当たる。本日は8のつく日。

## 平成30年 4月17日(火) 曇りのち雨

どんよりとした曇り空。気分が晴れないかもしれないが、気持ちを入れていきましょう。今日の夜、PTA本部役員会がありました。

## 平成30年 4月16日(月) 晴れ

土、日で雨が降りました。草木が一気に生えて、雑草が生い茂り、草刈をしなければならぬと思いつつも、また、1週間の始まりです。生徒の様子を見てみると。新年度、新学期の始まりのときよりも落ち着いてきていますね。新鮮なときの気持ちを忘れず、頑張ってください。

## 平成30年 4月13日(金) 晴れ

相変わらず、すばらしい陽気。

これで9日の月曜日以来、1週間が終わります。

あなたは、この1週間を長く感じましたか？それとも、短く感じましたか？

時間の長さは1週間なのに、感じ方によって、長かったり、短かったり、人さまざまで、面白いですね。極端に言うと、1分が1時間のように感じられたり、また、1秒のようにも感じられたり……。心のもち方次第で、感じ方はどうにでも変わるんだね。

まだ始まったばかりです。来週も頑張ります。

まだまだ、4月。交通安全に気をつけてください。被害者にも加害者にもなりません。慎重で安全第一の通学・通勤を心がけましょう。

## 平成30年 4月12日(木) 晴れ

すばらしい陽気。きっと、花粉がバンバン飛んでいるような気がします。

今日は、LHR で役員決めがありました。話し合っで決めているクラスや、黒板に早く書いたもの順?などさまざま。でも、きっと、皆その役に頑張ってくれるだろうから何も心配はしていない。

また、担任による教育相談が始まりました。環境が変わった中で、どんなことでもよいから相談してくれるとうれしいな。

幼、保、小、中、高、どこも新入生あり。交通事故に気をつけて何よりも安全第一に登校、出勤しましょう。

## 平成30年 4月11日(水) 曇りのち雨

部活動紹介がありました。

どんな部に入って活躍してくれるのかな、楽しみです。

## 平成30年 4月10日(火) 晴れ

午後に、体育館で、生徒会主催の対面式がありました。

生徒会の工夫を凝らした演出が、場を和ませてくれました。

また、生徒会長の挨拶と、1年生の代表の挨拶。どちらも、しっかりとしていて、感謝しました。

## 平成30年 4月 9日(月) 晴れ

午前中は新任式がありました。今年度関高校に着任された先生方の紹介です。

新任式に続いて始業式が行われました。その後、新学年、新学期、新たな気持ちで、神妙な面持ちでホームルームに望んでいました。ドキドキ感が伝わってきますね。

午後からは入学式。今年は小中高が同日になったため、高校は1時間いつもより時間を遅らせ、午後2時からの開始としました。真新しい制服に身を包み、初々しさたっぷりの1年生。

明日は対面式です。これで、また1年から3年まで皆揃います。2, 3年生は1年生の手本となるような先輩として、また、1年生は2, 3年生を見習って、ともに関高校を盛り上げて行ってほしいです。